

2023年12月期 第3四半期 決算補足説明資料

株式会社アシックス
2023年11月10日



目次

1. 連結業績
2. 連結経営成績（カテゴリー別）
3. 連結経営成績（地域別）
4. 連結財政状態
5. 連結業績予想
6. その他

DISCLAIMER 将来見通しに関する記述についての注意

このプレゼンテーション資料に記載されている、当社の現在の計画、見通し、戦略、確信などのうち、歴史的事実でないものは将来の業績に関する見通しであり、これらは現在入手可能な情報から得られた当社の経営者の判断に基づいています。したがって、これらの業績見通しの上に全面的に依拠することは控えてくださいますよう、お願いいたします。実際の業績は、さまざまなリスクや不確実性により、これらの業績見通しとは大きく異なる結果となりうることをご承知おきください。実際の業績に影響を与えうるリスクや不確実性には、当社の事業を取り巻く経済情勢、さまざまな競争圧力、関連法律・法規、為替レートの変動などを含みます。ただし、業績に影響を与えうる要素はこれらに限定されるものではありません。

2023年12月期 第3四半期累計期間 連結決算ポイント①

◆全体

- ✓ **売上高**：**4,481億円**（前年同期比：+23.4%、為替影響除く：+16.6%）
 - ・第3四半期累計期間で**過去最高**。全カテゴリー、全地域において前年同期比で増収。
 - ・第3四半期（3ヶ月期間）は前年同期比+14.5%（為替影響除く：+8.2%）。ほぼ全ての地域で引き続き堅調に成長。
- ✓ **粗利益率**：**51.2%**（前年同期比：+1.2ppt）
 - ・仕入為替の悪化があったものの、販売価格適正化やチャネルミックスの良化などにより改善。
- ✓ **営業利益**：**558億円**（前年同期比：+54.8%）、**営業利益率**：**12.5%**（前年同期比：+2.6ppt）
 - ・第3四半期累計期間で**過去最高**。
 - ・増収効果及び粗利益率の改善に加え、継続的な販管費コントロールによる販管費率の低下もあり営業利益率は大幅改善。
- ✓ **四半期純利益**：**402億円**（前年同期比：+73.3%）
 - ・第3四半期累計期間で**過去最高**。

◆カテゴリー業績

- ✓ **パフォーマンスランニング**：売上高 **前年同期比+15.1%**
 - ・昨年の生産影響時にはパフォーマンスランニングの生産を優先したものの、日本、中華圏、東南・南アジアで堅調に成長。
 - ・主要地域においてGEL-KAYANO 30が前モデルを上回り好調に推移。
- ✓ **スポーツスタイル**：売上高 **前年同期比+46.2%**
 - ・GEL-1130やGEL-KAYANO 14などのランニングシューズの復刻モデルが好評。
 - ・カテゴリー利益は前年同期比で約2倍となる100億円超。
- ✓ **オニツカタイガー**：売上高 **前年同期比+40.8%**
 - ・インバウンド需要を取り込んだ日本での大幅伸長に加え、東南・南アジアなども大きく成長。
 - ・カテゴリー利益は前年同期比で約2倍となる約130億円。

2023年12月期 第3四半期累計期間 連結決算ポイント②

◆地域業績

✓ アシックスジャパン：売上高 前年同期比+35.6%

- ・インバウンド需要の取り込みに加え、ワーキングシューズやバスケットボールシューズが好調.
- ・仕入為替の悪化があるも、利益率の高いオニツカタイガーの伸長などによる粗利益率改善もあり、営業利益は大幅増益.

✓ 中華圏：売上高 前年同期比+28.8%

- ・厳しい市場環境にも関わらず、力強く成長.
- ・昨年の第3四半期（3ヶ月期間）は、都市封鎖終了後の大幅な反動増があったものの、パフォーマンスランニングが20%超成長し、為替影響を除く売上高は前年同期比+10.9%.

✓ 東南・南アジア：売上高 前年同期比+54.3%

- ・成長ドライバーとして注力しており、特にインド、マレーシア、シンガポールなどが大きく牽引.

◆デジタル関連

✓ OneASICS会員：882万人（前年同期比+32.6%）、EC売上高：765億円（前年同期比+35.4%）

- ・シドニーマラソンにおいて、エントリーからレース完走後に至るまで、ランナーに新たな顧客体験を提供.

◆上方修正及び増配

✓ 第3四半期累計期間の好調な業績の進捗を踏まえ、通期業績予想を上方修正. 売上高及び段階利益は過去最高の更新を見込む.

- ・売上高：5,700億円、営業利益：520億円、当期純利益：275億円.

✓ 上記を踏まえ、期初時点の過去最高の年間配当予想 44円から、更に増配し年間配当予想 60円（うち、期末配当予想 35円）へ.

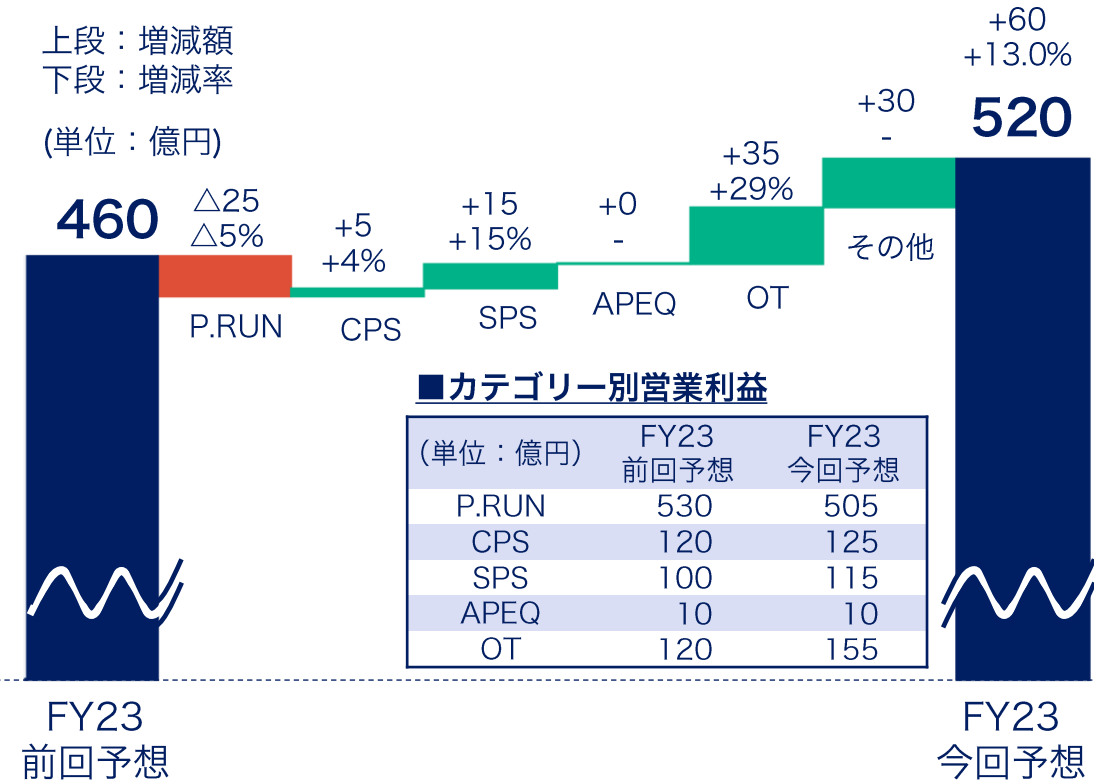
通期業績予想の上方修正及び増配

- ✓ 第3四半期累計期間の好調な実績を踏まえつつ、為替レートを実勢に応じて見直した結果、年間売上高は5,700億円、営業利益は520億円、当期純利益は275億円といずれも過去最高の見込み。
- ✓ カテゴリーではSPS及びOTが、地域別では日本、欧州及び中華圏が順調に推移する見通し。
- ✓ 当期業績とキャッシュ・フローの状況を総合的に勘案した結果、年間配当は期初時点の予想44円から増配し60円の見込み。

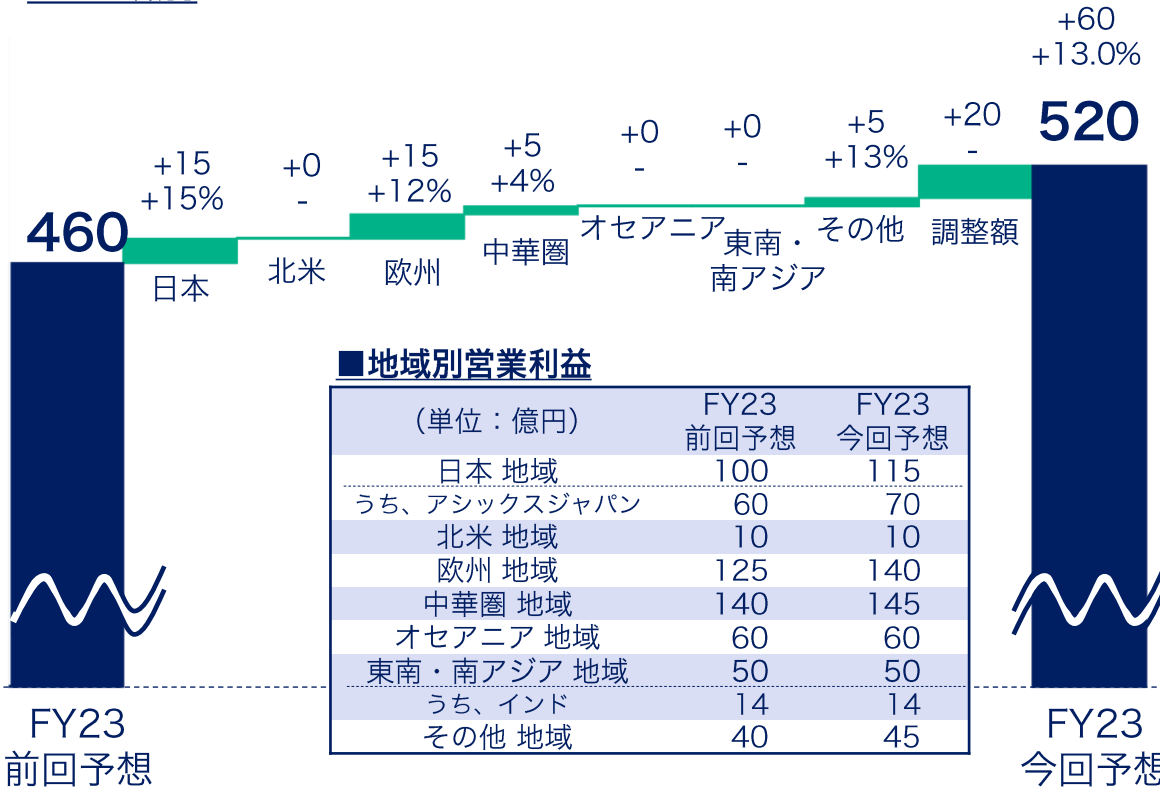
■カテゴリー別

上段：増減額
下段：増減率

(単位：億円)



■地域別



為替レート	USD	EUR	RMB
前回予想	135.00円	145.00円	19.50円
今回予想	140.00円	150.00円	19.50円

ランニングエコシステム拡大に向けた取り組み

- ✓ OneASICS会員登録者数は前年同期比 200万人以上増加。これもあり、EC売上高も大幅に伸長。
- ✓ シドニーマラソンを皮切りに、レース本番に向け、デジタルを活用してランナーをサポート。グローバル展開を目指す。

■OneASICS会員数とEC売上高の推移

	FY21Q3	FY22Q3	FY23Q3	前年同期比
OneASICS会員数	496万人	665万人	882万人	+32.6%
EC売上高	466億円	565億円	765億円	+35.4%

■東京レガシーハーフマラソン2023に向けた女性ランナー限定プログラムの提供

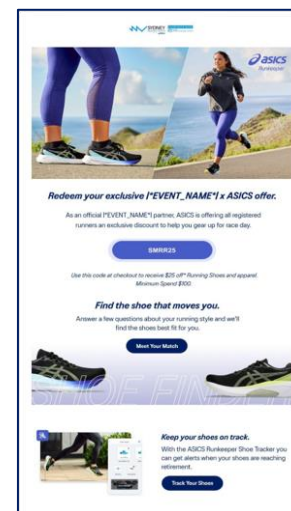
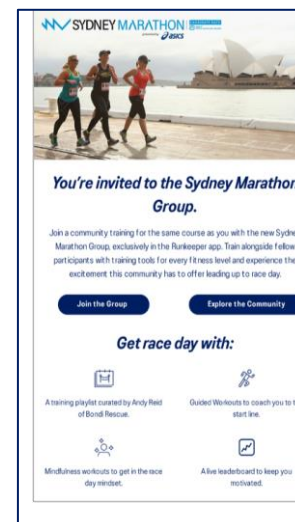


東京マラソン財団とともに、10月15日開催の「東京レガシーハーフマラソン2023」に向け、女性を対象としたランニング専用プログラムを提供。参加者限定バーチャルレース、コーチングアドバイスの週次配信、オンライン/リアルイベント等を通じて、イベント当日まで女性ランナーを10週間サポート。

■シドニーマラソン参加者をサポート

9月17日開催のシドニーマラソンのレース登録後から大会当日まで、ランニングエコシステムを通じたサービスを提供し、ランナーをサポート。下記のサービスなどを提供し、OneASICS会員数は大会前後比較で6,000人超の増加。

- ①コミュニティへの招待
- ②ECサイトでの購入
- ③ゴールシーンの映像



新社長COOのご紹介



名前 : 富永 満之 (61)
出身地 : 兵庫県神戸市
趣味 : テニス

経歴 :
1987年 アンダーセン・コンサルティング ニューヨークオフィス
1996年 日本IBM
2007年 IBM米国本社 コーポレートストラテジー Director
2009年 日本IBM Vice President/執行役員
2013年 SAP ジャパン Vice President/常務執行役員
2016年 ワークスアプリケーションズ アメリカ President/代表取締役社長

2018年 株式会社アシックスに入社 執行役員/IT統括部長
2020年 常務執行役員/IT統括部長 兼 デジタル担当 (CDO)
2021年 常務執行役員/デジタル統括部長 兼 CDO・CIO
2023年 常務執行役員/CDO・CIO

社長COO就任予定日 2024年1月1日

1. 2023年12月期 第3四半期連結業績

- ✓ 2023年12月期 第3四半期概要
- ✓ 連結決算ハイライト
- ✓ 販管費の状況

2023年12月期 第3四半期 概要

売上高 **4,481億円** (前年同期 3,630億円) 前年同期比 : +851億円 +23.4%
為替影響除く : +601億円 +16.6%

- ◆ 過去最高. 前年同期比で+23.4%、為替影響を除いても+16.6%の成長.
- ✓ インバウンド需要の取り込みに加え、ワーキングシューズやバスケットボールシューズが好調だったアシックスジャパンで+35.6%、厳しい市場環境にも関わらず、力強く成長した中華圏で+28.8%、インド、マレーシア、シンガポールなどが大きく牽引した東南・南アジアで+54.3%.

営業利益 **558億円** (前年同期 360億円) 前年同期比 : +198億円 +54.8%
為替影響除く : +172億円 +47.8%

- ◆ 過去最高. 前年同期比50%超の増益.
- ✓ 粗利益率は51.2%. 仕入為替の悪化があったものの、販売価格適正化やチャネルミックスの良化などが奏功し、前年同期から1.2ppt改善.
- ✓ 営業利益率は前年同期の9.9%から12.5%へ (+2.6ppt) .

四半期純利益 **402億円** (前年同期 232億円) 前年同期比 : +170億円 +73.3%
為替影響除く : +147億円 +63.6%

- ◆ 過去最高. 前年同期比70%超の増益.

連結決算ハイライト

(単位：億円)

第3四半期 (1-9月)	FY22Q3 実績	FY23Q3 実績	前年同期比 上段：増減額 下段：増減率
売上高	3,630	4,481	+851 +23.4%
売上総利益	1,815	2,296	+481 +26.5%
売上総利益率	50.0%	51.2%	+1.2ppt
販管費	1,455	1,738	+283 +19.5%
販管費率	40.1%	38.7%	△1.4ppt
人件費	491	546	+55 +11.3%
広告宣伝費	223	298	+75 +33.5%
広告宣伝費率	6.2%	6.7%	+0.5ppt
賃借料	91	95	+4 +4.4%
減価償却費	112	128	+16 +14.1%
その他経費	538	671	+133 +24.7%
営業利益	360	558	+198 +54.8%
営業利益率	9.9%	12.5%	+2.6ppt
経常利益	342	547	+205 +60.0%
特別損益	△6	4	+10
親会社株主に帰属する 四半期純利益	232	402	+170 +73.3%

	FY22Q3 実績	FY23Q3 実績	増減額	増減率
海外売上高	3,001	3,632	+631	+21.0%
海外比率	82.7%	81.1%	-	△1.6ppt
為替影響除く	連結売上高増減		+601	+16.6%
	連結営業利益増減		+172	+47.8%
	連結純利益増減		+147	+63.6%
平均為替レート (円)	FY22Q3 実績	FY23Q3 実績		
1ドル	127.94	138.85		
1ユーロ	136.00	150.34		
1人民元	19.31	19.71		

連結決算ハイライト（3ヶ月期間）

（単位：億円）

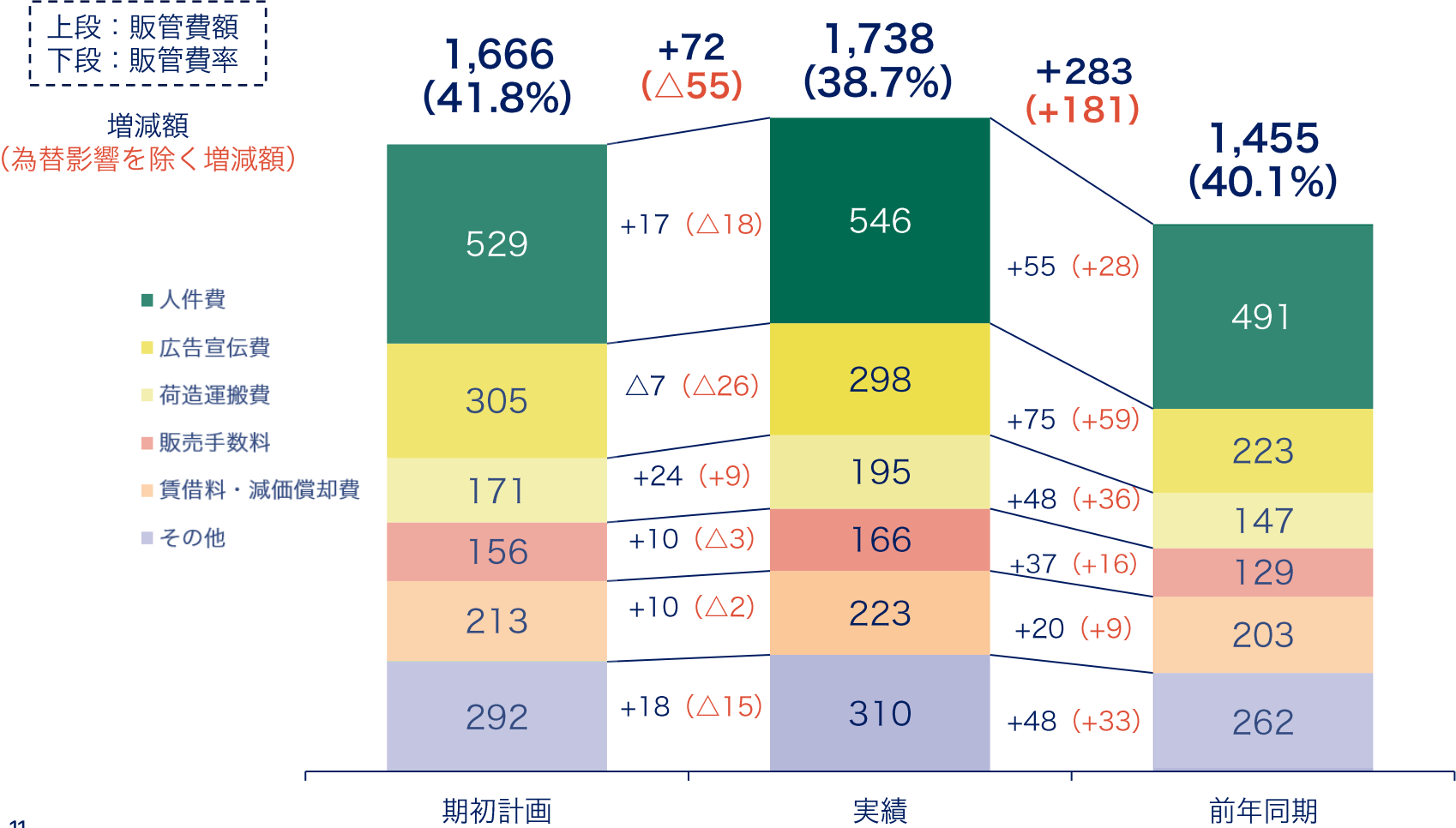
3ヶ月期間 (7-9月)	FY22Q3 実績	FY23Q3 実績	前年同期比 上段：増減額 下段：増減率
売上高	1,380	1,581	+201 +14.5%
売上総利益	701	817	+116 +16.6%
売上総利益率	50.7%	51.7%	+1.0ppt
販管費	532	595	+63 +11.9%
販管費率	38.5%	37.7%	△0.8ppt
人件費	176	182	+6 +3.6%
広告宣伝費	87	106	+19 +21.9%
広告宣伝費率	6.3%	6.7%	+0.4ppt
賃借料	32	33	+1 +2.9%
減価償却費	40	43	+3 +9.1%
その他経費	197	231	+34 +17.3%
営業利益	169	222	+53 +31.4%
営業利益率	12.2%	14.0%	+1.8ppt
経常利益	153	209	+56 +37.3%
特別損益	△2	8	+10
親会社株主に帰属する 四半期純利益	97	155	+58 +59.9%

	FY22Q3 実績	FY23Q3 実績	増減額	増減率
海外売上高	1,153	1,302	+149	+12.9%
海外比率	83.6%	82.4%	-	△1.2ppt
為替影響除く	連結売上高増減		+113	+8.2%
	連結営業利益増減		+42	+24.9%
	連結純利益増減		+44	+45.4%
四半期推移	Q1	Q2	Q3	Q4
売上高	1,522	1,378	1,581	
営業利益	221	115	222	
営業利益率	14.5%	8.3%	14.0%	
親会社株主に帰属する 四半期純利益	163	84	155	

- ✓ 売上高は、工場稼働停止による供給制約からの反動増があった前年に対しても好調を維持.
- ✓ 売上総利益は、前年比+1.0pptの51.7%.
チャンネル戦略などが奏功し、利益を伴う成長を続ける.
- ✓ スポーツイベントの再開による広告宣伝費増加や各コストが上昇する中でも、全ての段階利益で増益.

販管費の状況（第3四半期累計期間）

- ✓ 期初計画比は、72億円増加も為替影響(+127億円)を除くと55億円減少。 主要因は広告宣伝費の発生時期変更に伴う減少及び採用計画の見直しによる人件費減少。
- ✓ 前年同期比は、 283億円増加も為替影響(+102億円)を除くと181億円増加。 主要因はインフレやリテールビジネス拡大に伴う人件費、スポーツイベント再開が本格化したことによる広告宣伝費、ECの売上高増加に連動した販売手数料や荷造運搬費の増加。
- ✓ 販管費率は38.7%。 前年同期比では大幅増収により、期初計画比では人件費率、広告宣伝費率の縮小により低下。



(単位：億円)

<参考：平均為替レート（円）>

第3四半期 (1-9月)	FY23Q3 期初計画	FY23Q3 実績	FY22Q3 実績
1ドル	125.00	138.85	127.94
1ユーロ	132.00	150.34	136.00
1人民元	19.00	19.71	19.31

2. 2023年12月期 第3四半期 連結経営成績（カテゴリー別）

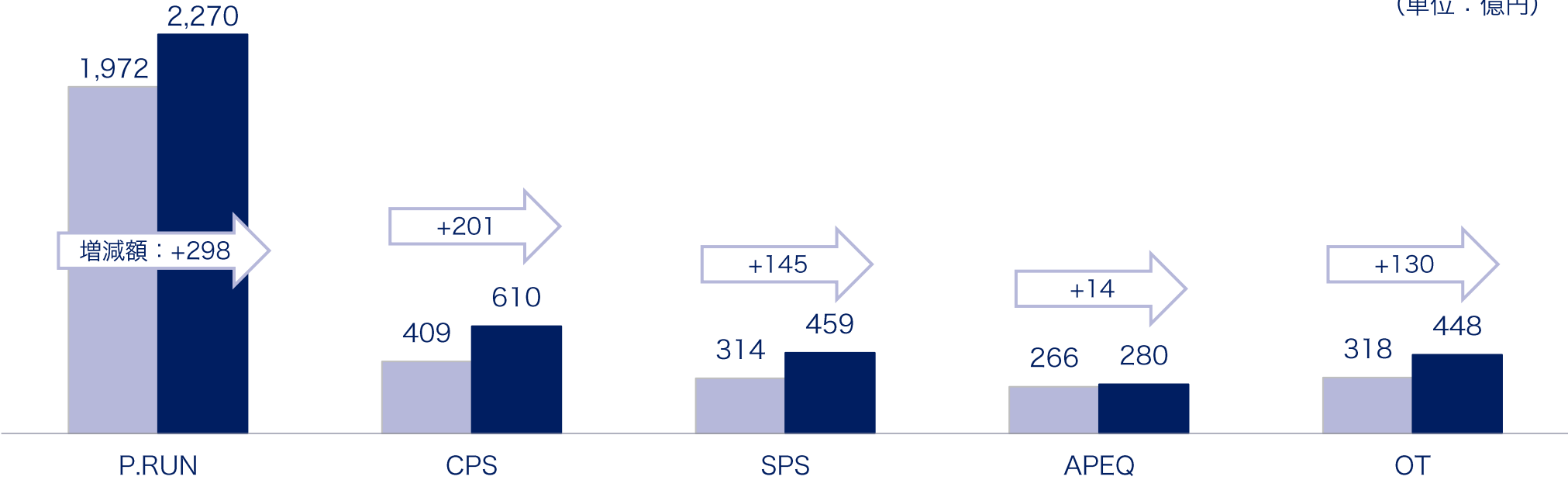
- ✓ カテゴリー別連結売上高
- ✓ カテゴリー別業績

カテゴリー別連結売上高

- ✓ 全カテゴリーで増収。CPS、SPS、OTは40%を超える大幅増収。
- ✓ P.RUNは全地域で増収。為替影響を除く成長率は前年同期+6.1%を上回る+7.2%で着地。
- ✓ CPSは全地域で二桁増収。特に北米、欧州でのテニス、日本のワーキングが大きく伸長。
- ✓ SPSは主に欧州、北米、中華圏、韓国で著しく成長。
- ✓ OTは全地域で増収。特に、インバウンド売上が大幅に増加した日本に加え、東南・南アジアも好調を維持。

■ FY22Q3 ■ FY23Q3

(単位：億円)



増減率	+15.1%	+48.9%	+46.2%	+5.2%	+40.8%
為替影響を除く	+7.2%	+42.1%	+35.9%	+0.1%	+35.8%

カテゴリー利益等一覧

- ✓ 全カテゴリーで増収増益.
- ✓ カテゴリー外コストは、為替影響（+14億円）や人件費の増加（+5億円）などにより前年同期比プラスとなるもコストオーナー制の下、売上高成長率の範囲内でコントロール.

（単位：億円）

	P.RUN	CPS	SPS	APEQ	OT	Others	TTL
売上高	2,270 (+298)	610 (+201)	459 (+145)	280 (+14)	448 (+130)	414 (+63)	4,481 (+851)
カテゴリー利益	445 (+6)	130 (+48)	103 (+50)	20 (+25)	129 (+65)		
カテゴリー外コスト							287 (+30)
連結営業利益							558 (+198)

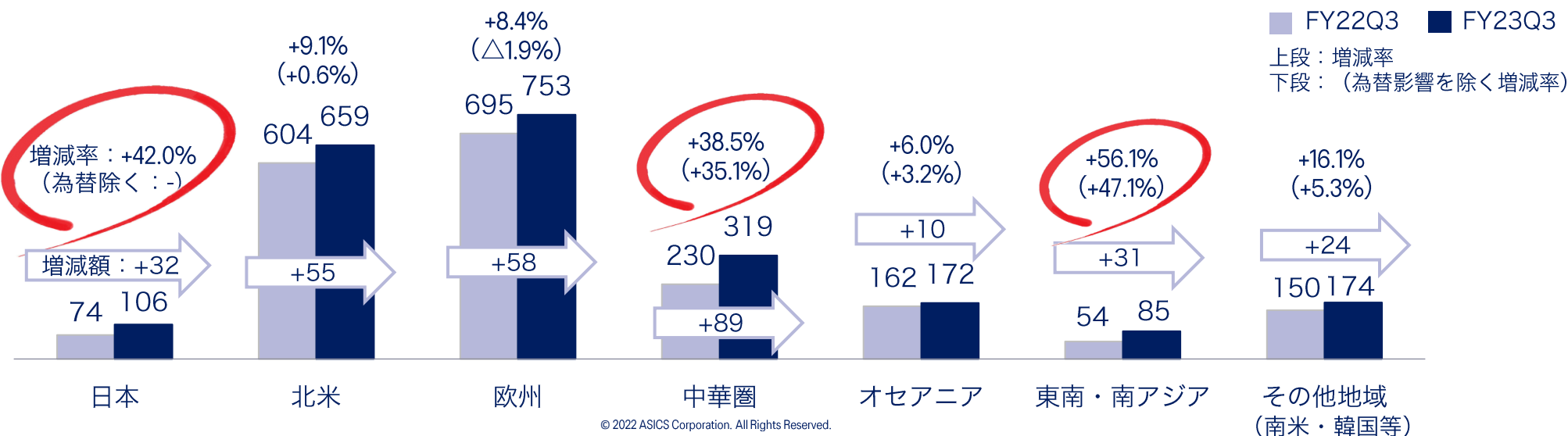
（ ）内は前年同期比

パフォーマンスランニング (P.RUN)

(単位：億円)

第3四半期 (1-9月)	FY22Q3	FY23Q3	前年同期比 増減額	前年同期比 増減率
売上高	1,972	2,270	+298	+15.1%
為替影響除く増減		2,114	+142	+7.2%
カテゴリー利益	439	445	+6	+1.5%
カテゴリー利益率	22.3%	19.6%	-	△2.7ppt
3ヶ月期間 (7-9月)	FY22Q3	FY23Q3	前年同期比 増減額	前年同期比 増減率
売上高	740	792	+52	+7.1%
為替影響除く増減		741	+1	+0.1%
カテゴリー利益	180	153	△27	△15.0%
カテゴリー利益率	24.3%	19.3%	-	△5.0ppt

■地域別売上高



GT2000 12

軽量でありながら安定性と快適性を兼ね備えたランニングシューズ

ポイント

- ◆ 売上高は全地域で増収。特に日本、中華圏、東南・南アジアで大幅増収。
- ◆ 第3四半期3ヶ月期間の売上高も、中華圏、オセアニア、東南・南アジアで高成長を記録した前年同期間に対して増収。
- ◆ 粗利益率は仕入為替の悪化影響があったものの、48.7%（前年同期比+0.3ppt）と改善。北米と欧州で高粗利益率商品の販売や価格適正化に注力。
- ◆ カテゴリー利益は、主に中華圏、日本、東南・南アジアの増収に伴い増益。
- ◆ EC関連費用や広告宣伝費の増加などが影響し、カテゴリー利益率は減少。
- ◆ 前作を超えるクッション性と反発性を実現した新商品、NOVABLAST 4を年内に発売予定。

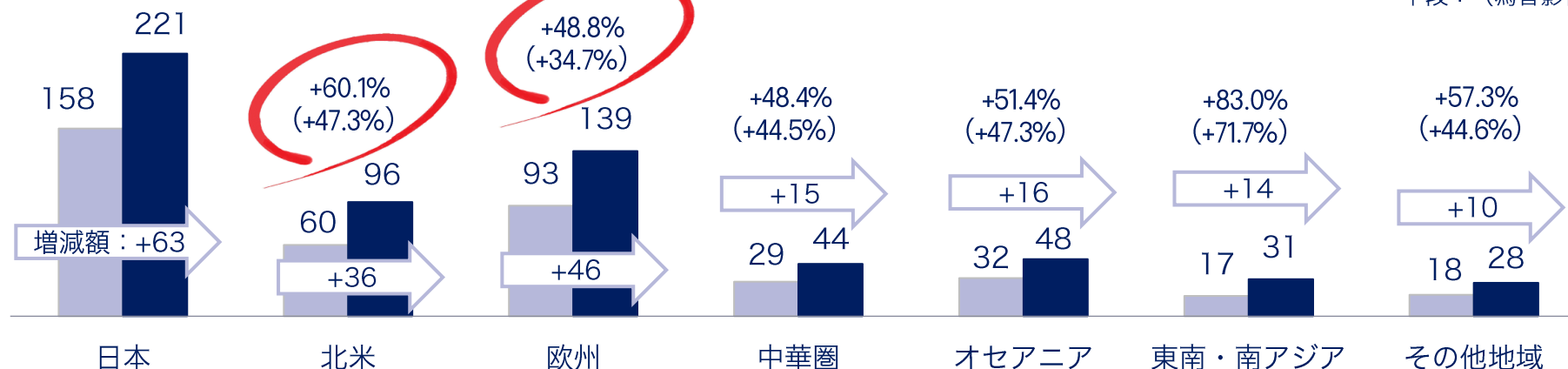
コアパフォーマンススポーツ (CPS)

(単位：億円)

第3四半期 (1-9月)	FY22Q3	FY23Q3	前年同期比 増減額	増減率
売上高	409	610	+201	+48.9%
為替影響除く増減		581	+172	+42.1%
カテゴリー利益	82	130	+48	+57.3%
カテゴリー利益率	20.2%	21.3%	-	+1.1ppt
3ヶ月期間 (7-9月)	FY22Q3	FY23Q3	前年同期比 増減額	増減率
売上高	174	206	+32	+18.4%
為替影響除く増減		195	+21	+12.1%
カテゴリー利益	42	43	+1	+2.4%
カテゴリー利益率	24.1%	20.9%	-	△3.2ppt

■地域別売上高

増減率：+39.6%
(為替除く：-)



COURT FF 3(オールコート)

スピードと安定性を高い次元で両立するアシックステニスのフラッグシップモデル

ポイント

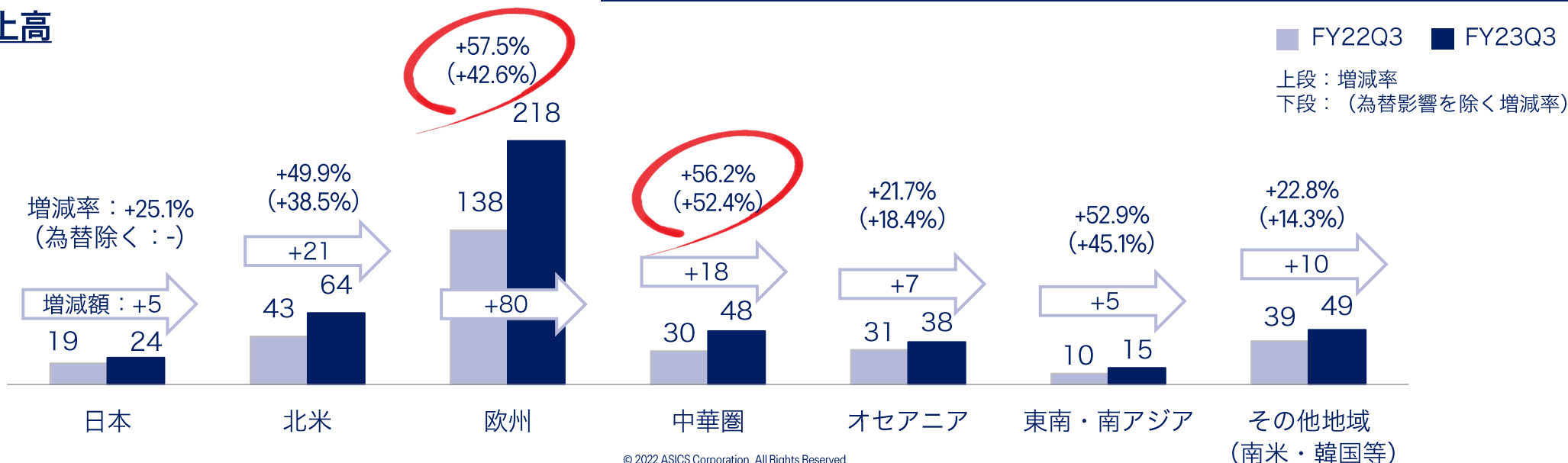
- ◆ 売上高は全地域で2桁増収。
テニスシューズ、ワーキングシューズが好調に推移。
- ◆ 第3四半期3ヶ月期間の売上高は、特に欧州、北米の好調により増収。
- ◆ 粗利益率は、仕入為替の悪化影響などにより43.5%（前年同期比△1.9ppt）。
- ◆ カテゴリー利益は欧州、日本を筆頭に全地域で増益。
- ◆ 主要国際大会・契約アスリートとの連携を強化し、クリニック開催など記念イベントを通してお客様に継続的に訴求。

スポーツスタイル (SPS)

(単位：億円)

第3四半期 (1-9月)	FY22Q3	FY23Q3	前年同期比 増減額	前年同期比 増減率
売上高	314	459	+145	+46.2%
為替影響除く増減		426	+112	+35.9%
カテゴリー利益	53	103	+50	+94.1%
カテゴリー利益率	17.0%	22.6%	-	+5.6ppt
3ヶ月期間 (7-9月)	FY22Q3	FY23Q3	前年同期比 増減額	前年同期比 増減率
売上高	129	179	+50	+38.8%
為替影響除く増減		165	+36	+27.9%
カテゴリー利益	22	49	+27	+122.7%
カテゴリー利益率	17.1%	27.4%	-	+10.3ppt

■地域別売上高



GEL-TEREMOA(ゲル・テレモア)

「自由」と「柔軟性」をデザインに落としこんだ
ASICS NOVALIST™コレクション



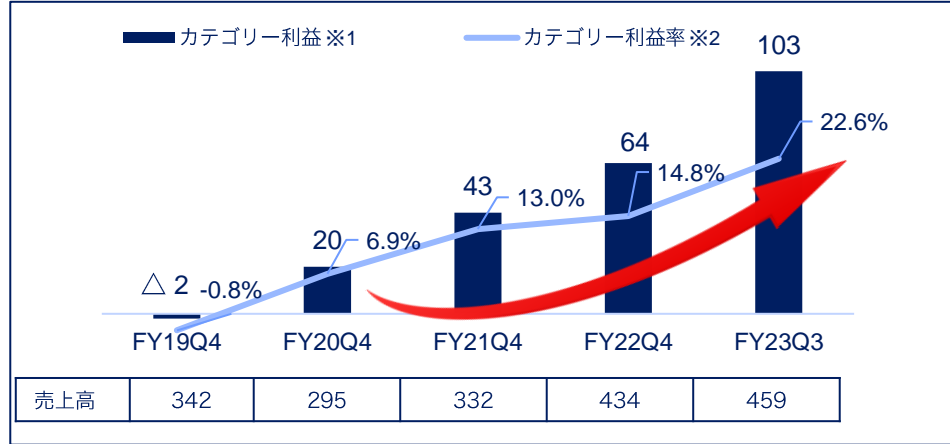
ポイント

- ◆ 売上高は全地域で2桁増収.
- ◆ 第3四半期3ヶ月期間の売上高は特に欧州のホールセールが前年に対して増収.
- ◆ 粗利益率は49.0%（前年同期比+1.9ppt）、高粗利率商品への注力や販売価格の適正化により改善.
- ◆ カテゴリー利益は特に欧州で増益.
- ◆ キコ・コスタディノフ Studioと共同で開発したアパレル含むユニセックスの新コレクションであるASICS NOVALIST™(ノバリス)を展開開始.

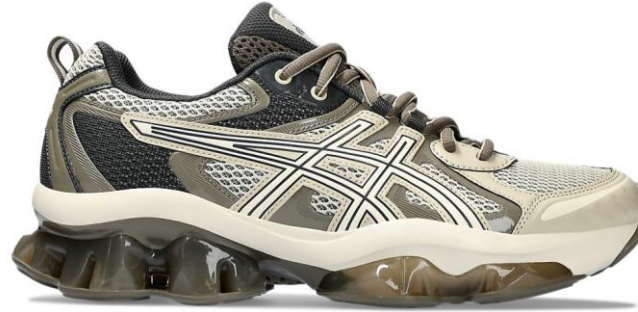
SPORTSTYLEの取組み

- ✓ ファッション感度の高いお客様に強いアカウントとの取組みを強化し、高価格帯商品を中心にSPSの新たなターゲット層を開拓。
- ✓ プロダクト主軸からブランド主軸のマーケティング活動へシフトし、適切なターゲット層にブランドメッセージを届けることに成功。

SPORTSTYLEの業績推移（億円）



高価格帯商品の例



GEL-QUANTUM KINETIC
販売価格：33,000円（税込）



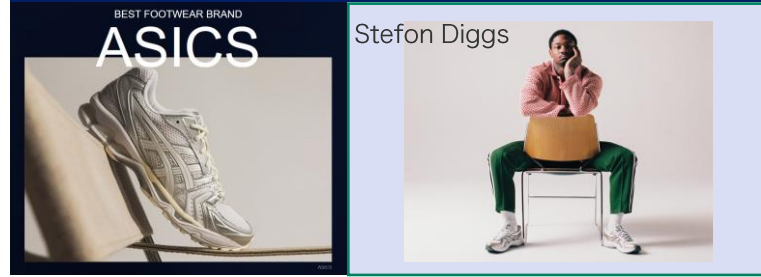
GEL-KAYANO 14
販売価格：17,600円（税込）

①製品戦略



- ◆ キコ・コスタディノフ氏とのパートナーシップの強化やファッション・ストリート両分野でのコラボレーションをグローバルで実施

②マーケティング戦略



- ◆ 女性顧客をターゲットとしたプログラムの実施、コラボレーションパートナーとの共同広告制作、HYPEBEASTブランドオブザイヤー獲得(2022年)

③エリア戦略



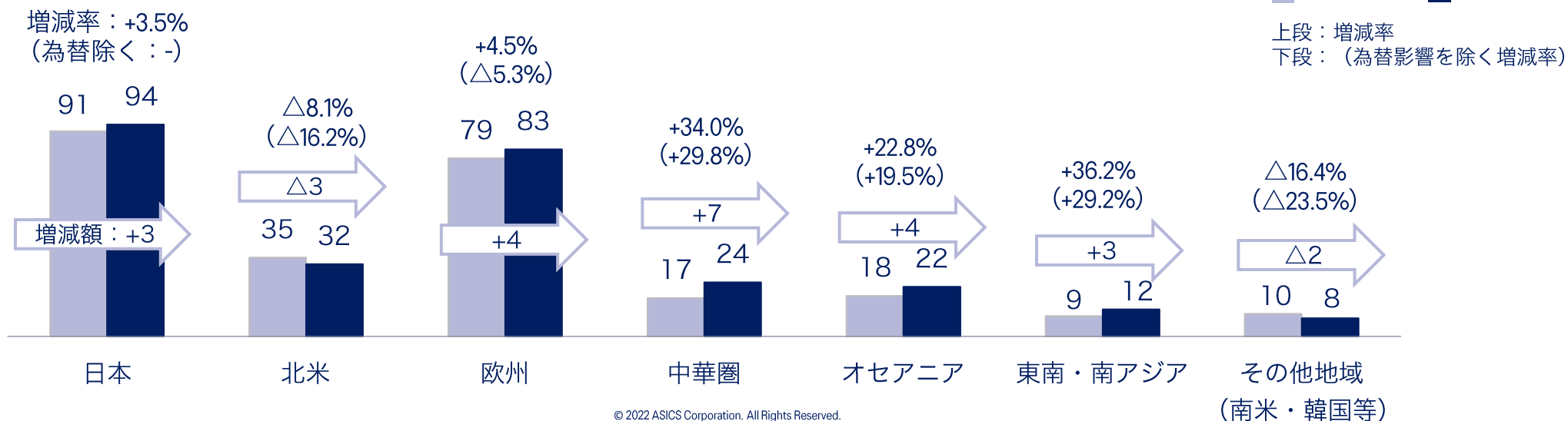
- ◆ 欧州、韓国、中国等で若者を中心に支持を獲得、更なるグローバル展開へ

アパレル・エキップメント (APEQ)

(単位：億円)

第3四半期 (1-9月)	FY22Q3	FY23Q3	前年同期比 増減額	前年同期比 増減率
売上高	266	280	+14	+5.2%
為替影響除く増減		266	+0	+0.1%
カテゴリー利益	△5	20	+25	-
カテゴリー利益率	△2.2%	7.2%	-	+9.4ppt
3ヶ月期間 (7-9月)	FY22Q3	FY23Q3	前年同期比 増減額	前年同期比 増減率
売上高	95	100	+5	+5.3%
為替影響除く増減		95	+0	+0.0%
カテゴリー利益	△5	7	+12	-
カテゴリー利益率	△5.3%	7.0%	-	+12.3ppt

■地域別売上高



BEAT THE COLD

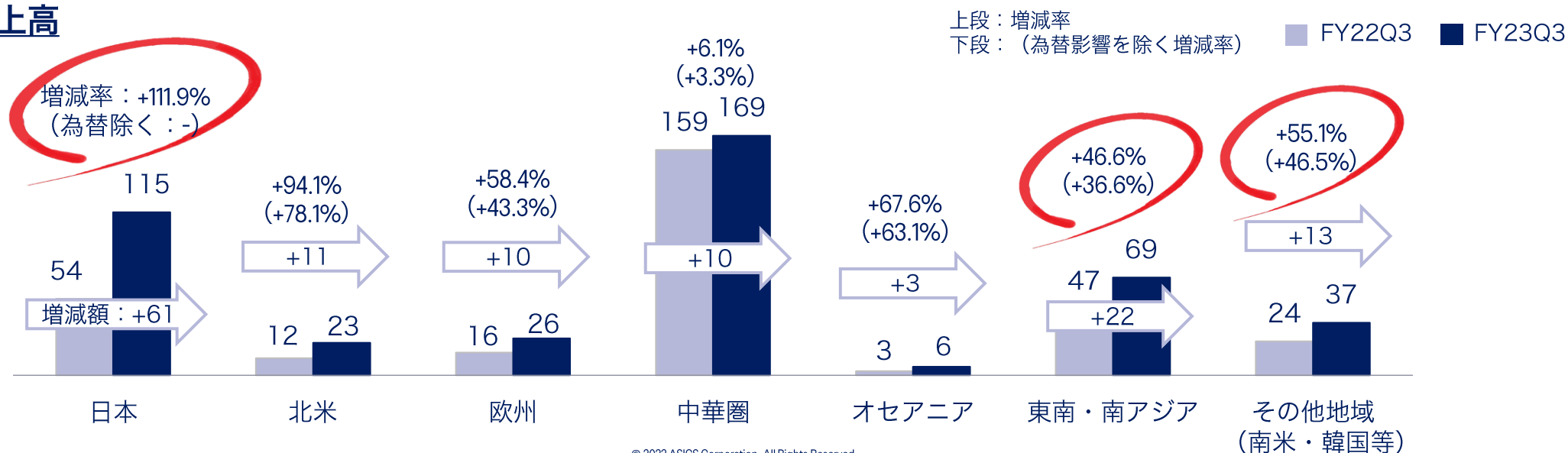
寒い冬に大活躍する防水透湿機能と保温性を兼備する
ランニングウェア

オニツカタイガー (OT)

(単位：億円)

第3四半期 (1-9月)	FY22Q3	FY23Q3	前年同期比 増減額	増減率
売上高	318	448	+130	+40.8%
為替影響除く増減		432	+114	+35.8%
カテゴリー利益	64	129	+65	+101.5%
カテゴリー利益率	20.1%	28.8%	-	+8.7ppt
3ヶ月期間 (7-9月)	FY22Q3	FY23Q3	前年同期比 増減額	増減率
売上高	122	166	+44	+36.1%
為替影響除く増減		161	+39	+32.0%
カテゴリー利益	28	51	+23	+82.1%
カテゴリー利益率	23.0%	30.7%	-	+7.7ppt

■地域別売上高



DELECITY BOOTS

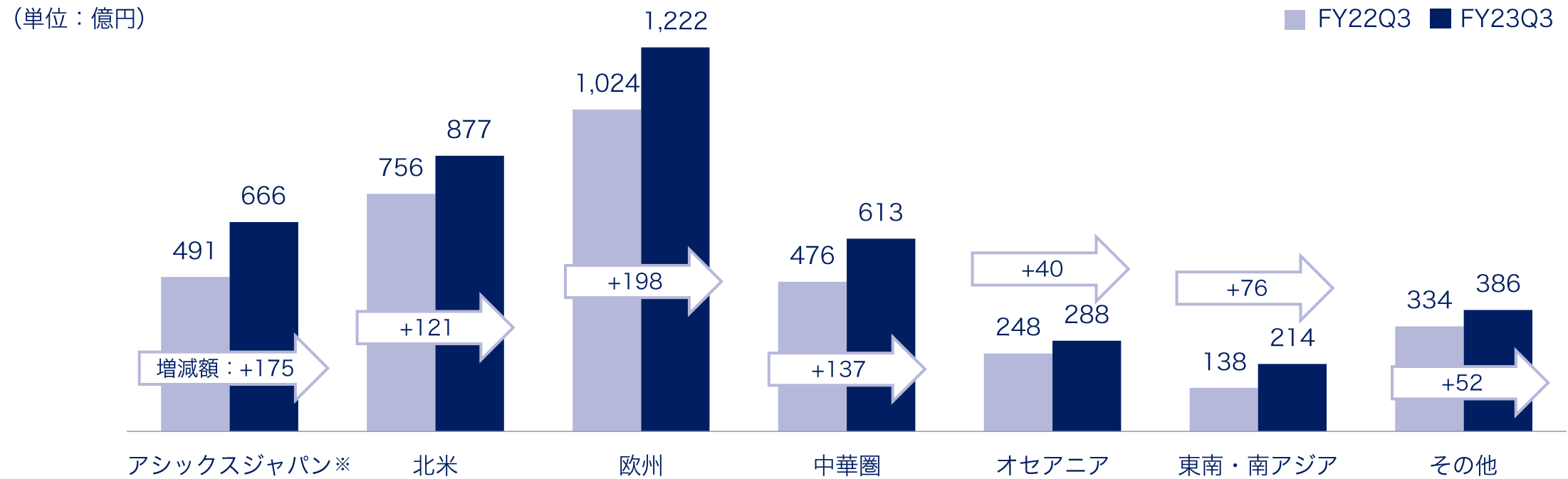
定番アイテム「DELECITY」をブーツスタイルに仕上げた1足

3. 2023年12月期 第3四半期 連結経営成績（地域別）

- ✓ 地域別売上高
- ✓ 連結営業利益内訳（地域別）
- ✓ チャネル別売上高
- ✓ 月別・四半期別売上高

地域別売上高

- ✓ CPSやSPS、OTの躍進により、全地域で増収。
- ✓ アシックスジャパンではインバウンドが大幅増加となり、30%超の大幅増収。
ワーキングシューズやバスケットボールシューズを中心にCPSが約40%の躍進。
- ✓ 東南・南アジアは為替影響を除いても40%超の伸長。インド、マレーシア、シンガポールなどで高成長。



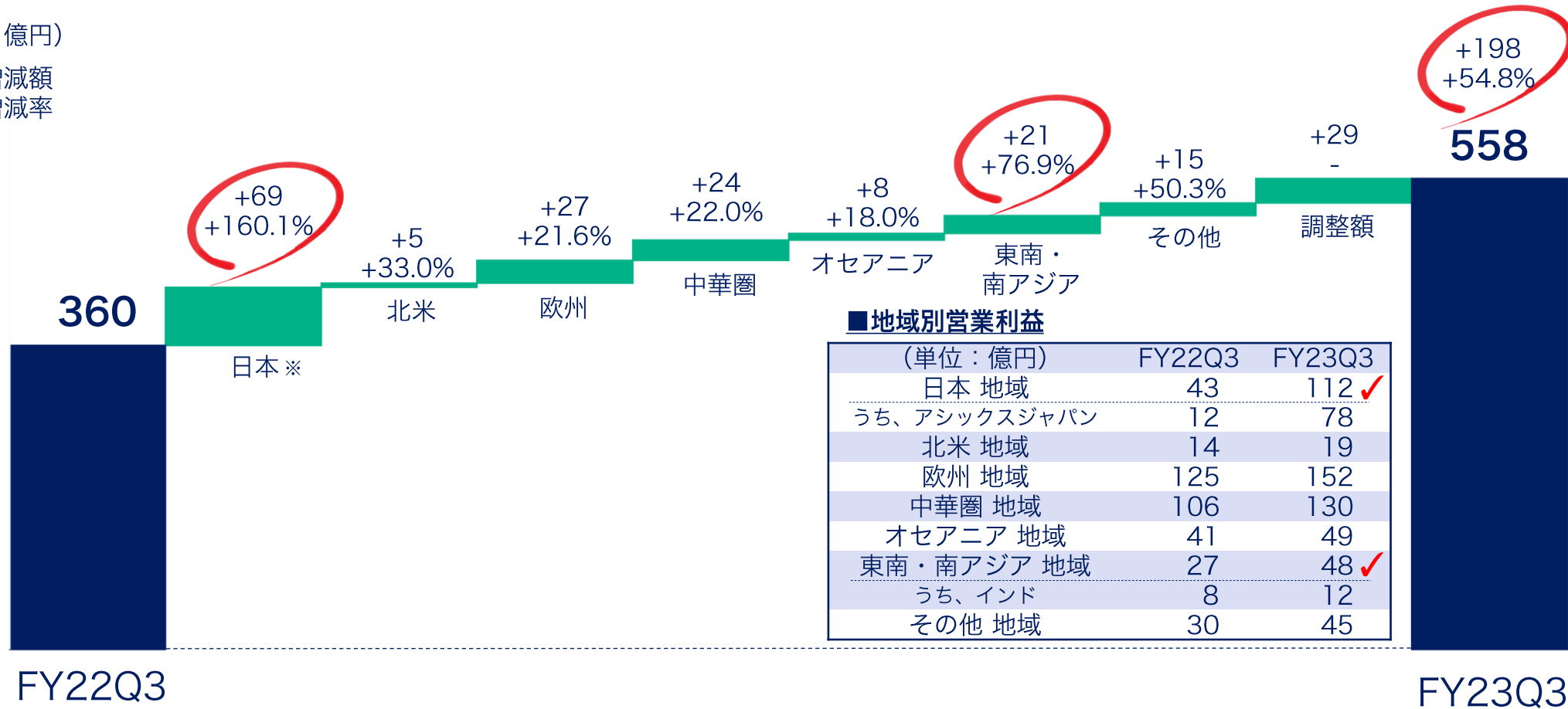
増減率	+35.6%	+16.1%	+19.3%	+28.8%	+16.0%	+54.3%	+15.5%
為替影響を除く	-	+6.9%	+7.9%	+25.6%	+12.8%	+45.0%	+7.7%

※ 日本地域には、他の地域にはない主要5カテゴリー以外を販売する会社の売上も含まれております。よって、この決算補足説明資料においては、他の地域との比較可能性を考え、2022年12月期 第1四半期よりアシックスジャパンとしております。なお、日本地域における売上は、前期 891億円、当期 1,019億円です。

連結営業利益内訳（地域別）

- ✓ 営業利益は前年同期比50%超の増益となり過去最高。営業利益率は前年同期比+2.6pptとなる12.5%に良化。
- ✓ 日本地域に含まれるアシックスジャパンでは、大幅増収となったことにより、12億円から78億円へ増益。
- ✓ 成長市場として位置付ける東南・南アジアは70%超の増益。シンガポール（+5億円）やマレーシア（+5億円）、インド（+4億円）が牽引。

（単位：億円）
 上段：増減額
 下段：増減率

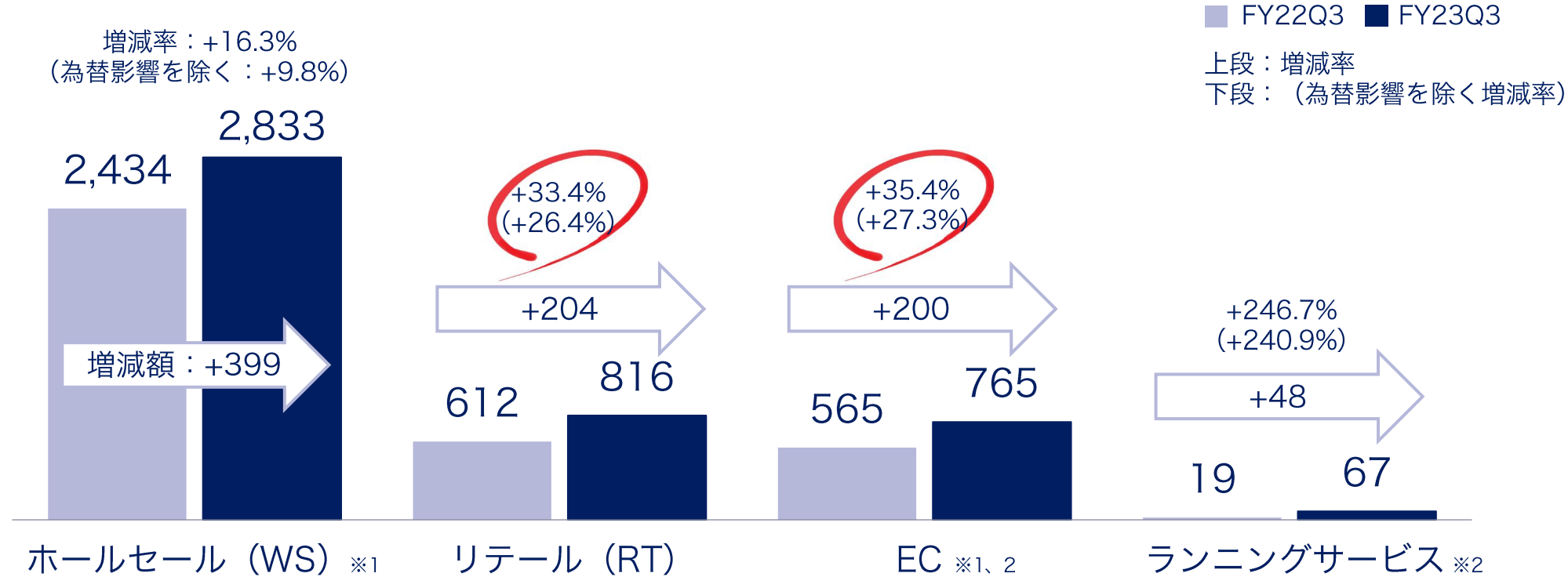


※ 日本地域には、他の地域にはない主要5カテゴリー以外を販売する会社も含まれております。他の地域との比較可能性を考え、アシックスジャパンを日本地域の内訳として記載しております。なお、日本地域には、アシックスジャパン、アシックス商事、ニシスポーツなどの会社を含みます。

チャネル別売上高

- ✓ ホールセールは、東南・南アジアでの増収により+16.3%。
- ✓ リテールは、日本や中華圏などでの増収により+33.4%。中華圏は厳しい市場環境の中でも、前年同期比+74.8%の増収。
- ✓ ECは、前年同期比+35.4%と、大幅伸長。特に、北米（+43.7%）や欧州（+45.8%）が牽引。

(単位：億円)



チャネル別
売上高構成

67.0%	▶	63.2%	16.9%	▶	18.2%	15.6%	▶	17.1%	0.5%	▶	1.5%
-------	---	-------	-------	---	-------	-------	---	-------	------	---	------

※1 自社ECサイトとマーケットプレイスはECに含み、ホールセールEリテラーはホールセールに含んでおります。
 ※2 2023年より従前ECに含んでいたランニングサービスを新チャネルとして開示。ランニングサービスは、レースロースターやアールビーズが担うレース登録や運営などのサービス事業を含んでおり、ランニングエコシステムの拡充に繋がる同サービスを強化することで更なる収益性向上を図る。

連結売上高（月別・四半期別）

■ FY23
■ FY22

■ 売上速報
■ 前年同月比%（為替影響を除く増減率）

- ✓ 前年10月は生産影響や物流混乱からの回復による反動増で、例年よりも高水準の売上を記録。
- ✓ 本年10月単月売上は432億円。前年同月比では為替影響を除き△9%も、中華圏と東南・南アジアが前年同月比20%超の成長。なお、当初計画は超過。
- ✓ コロナ禍前の2019年10月(275億円)比では為替影響を除いて+40%の大幅増収。

■10月度主要地域売上

	売上高	為替影響を除く増減率		売上高	為替影響を除く増減率
連結	432	△9%	中華圏	58	+21%
アシックスジャパン	69	+9%	オセアニア	27	△15%
北米	87	△17%	東南・南アジア	22	+23%
欧州	92	△21%	その他地域	67	△17%

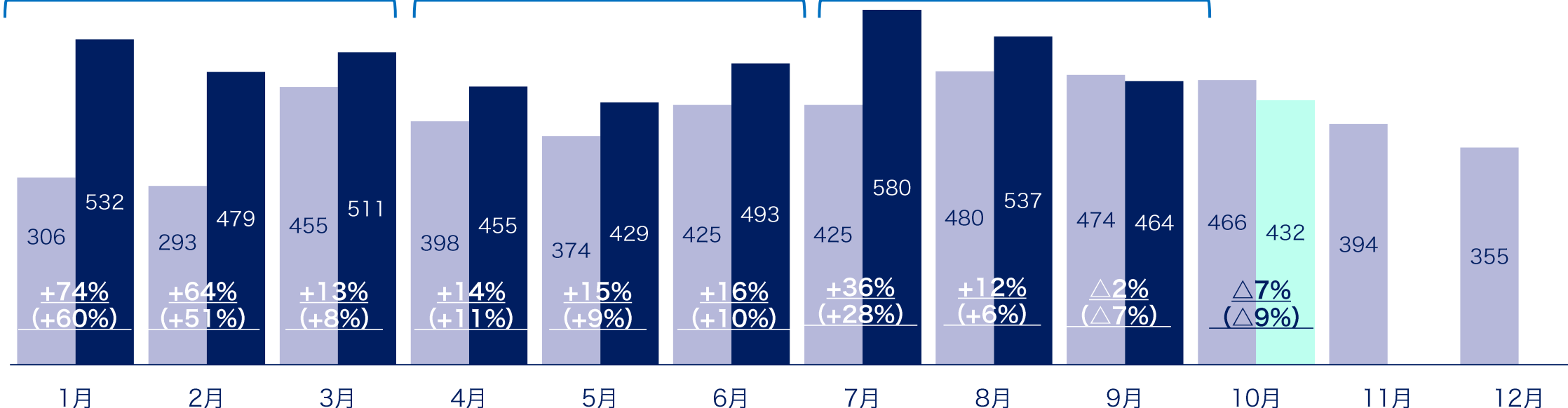
(単位：億円)

H1 +29% (+22%)

Q1 +45% (+35%)

Q2 +15% (+10%)

Q3 +15% (+8%)



※ 2023年10月の売上高は速報データに基づいているため、確定データとは差異が生じることがあります。
また、新型コロナウイルス感染や生産遅延による影響も沈静化しておりますので、連結全体のみ開示とさせていただきます。

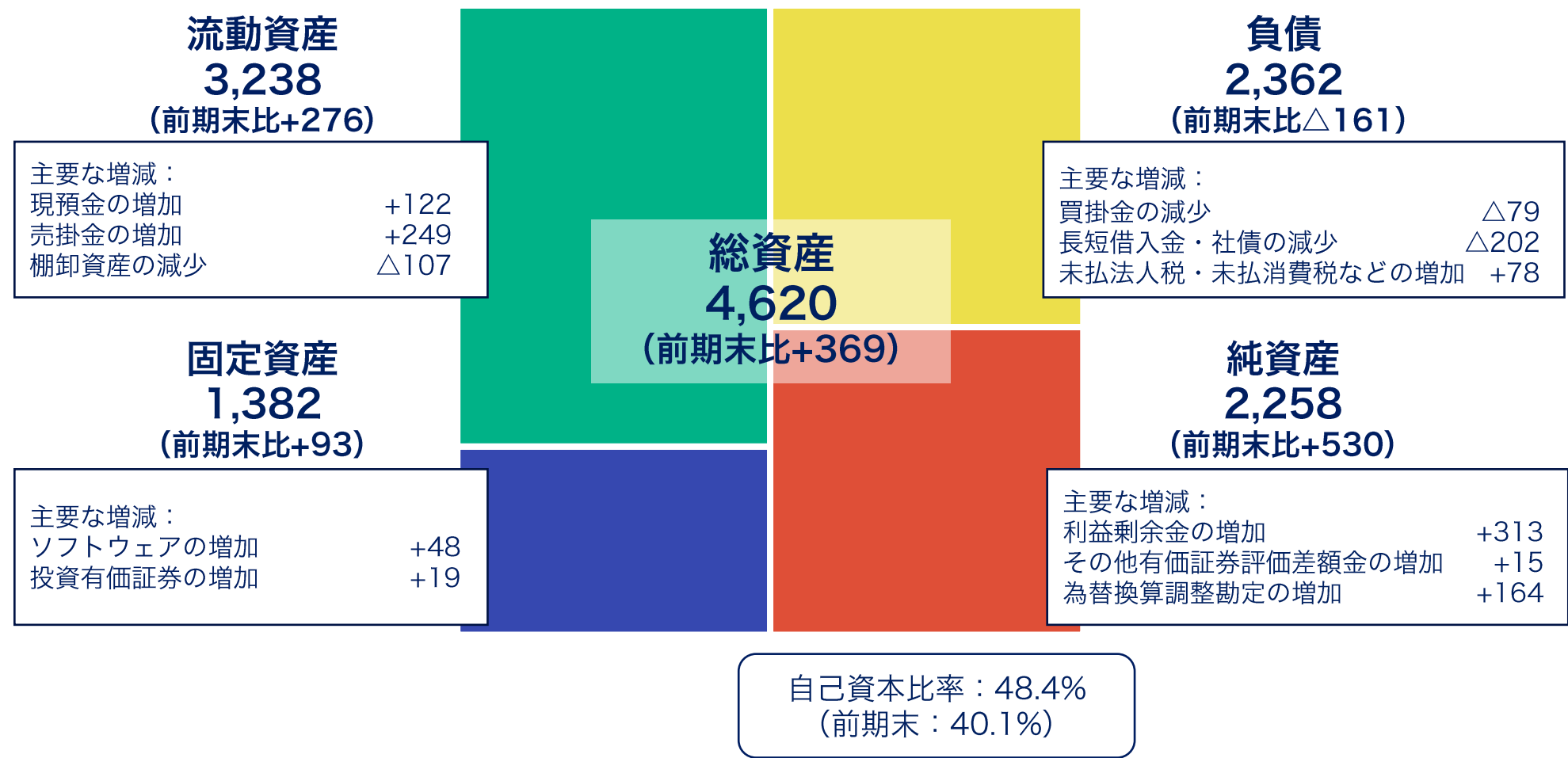
4. 2023年12月期 第3四半期 連結財政状態

- ✓ 連結貸借対照表
- ✓ 連結棚卸資産残高
- ✓ ROAツリー分解

連結貸借対照表

- ✓ 増収基調にあるものの、棚卸資産の圧縮が奏功し資金効率が改善。
- ✓ 為替影響等による総資産の膨らみがあったものの、社債の償還等に加え純利益の積み上げもあり、自己資本比率は前期末比で8.3ppt改善の48.4%。

(単位：億円)



連結棚卸資産残高

- ✓ 当第3四半期末の棚卸資産残高は為替影響(+106億円)による押し上げがあったが、前期末から実質213億円減少(△15.7%).
- ✓ これを受け、棚卸資産回転日数は前期末から47日改善.

■連結

(単位：億円)	FY22Q3	FY22Q4	FY23Q3	前年同期比	前期末比
連結	1,250	1,355	1,248	△2	△107
内、洋上在庫	218	234	141	△77	△93

■カテゴリー別※

(単位：億円)	FY22Q3	FY22Q4	FY23Q3	前年同期比	前期末比
P.RUN	536	619	549	+13	△70
CPS	75	118	109	+34	△9
SPS	88	96	96	+8	0
APEQ	135	111	120	△15	+9
OT	147	123	138	△9	+15

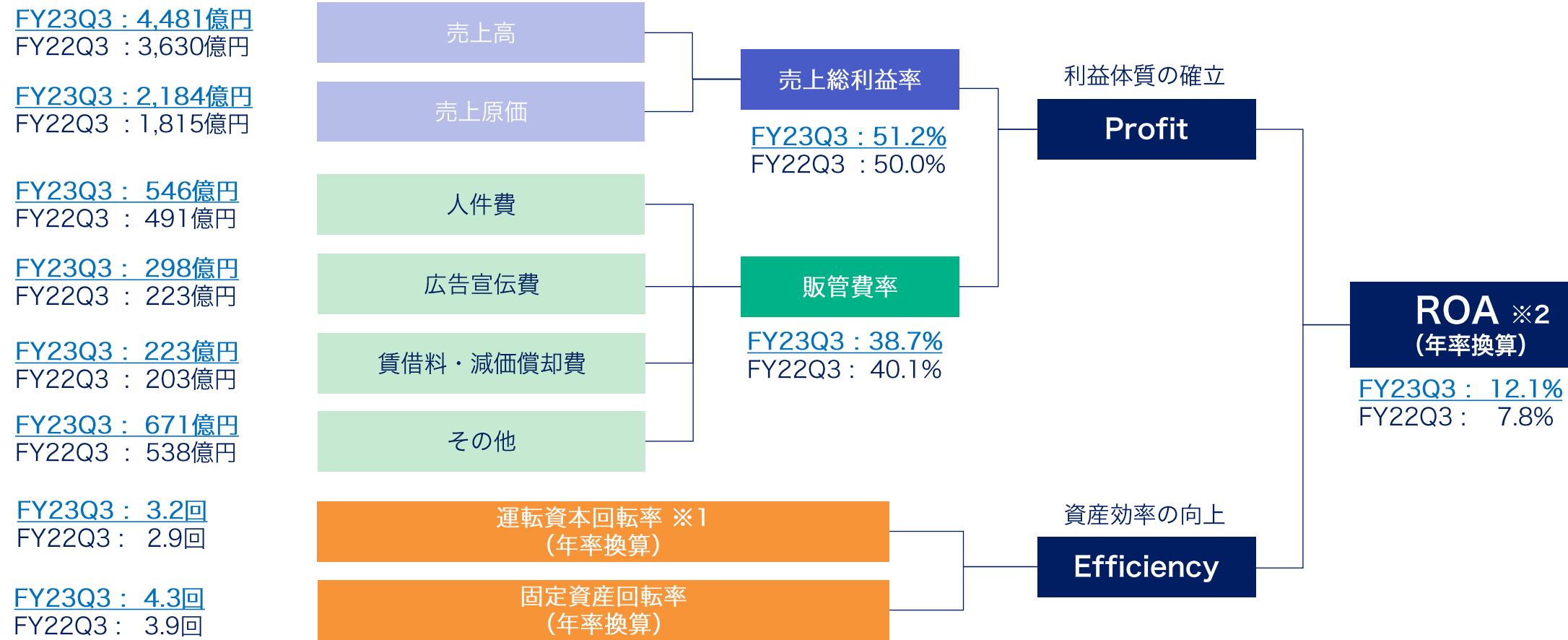
■主要地域別

(単位：現地通貨)	FY22Q3	FY22Q4	FY23Q3	前年同期比	前期末比
アシックスジャパン (億円)	146	154	158	+12	+4
米国 (M USD)	249	220	165	△84	△55
欧州 (M EUR)	187	270	204	+17	△66
中国 (M RMB)	777	857	621	△156	△236

※ カテゴリー別棚卸資産残高には洋上在庫を含めておりません.

ROAツリー分解

- ✓ 販売価格適正化やチャネルミックスの良化などによる売上総利益率の改善に加え、継続的な販管費コントロールにより販管比率は低下.
- ✓ 運転資本改善活動である「キャッシュフローコミッティ」などを通じた、棚卸資産最適化に向けた取組み強化が奏功.



※1 社内目標として運転資本を設定しているため流動資産回転率ではなく運転資本回転率を記載しております。

※2 ROA =
$$\frac{\text{2023年12月期第3四半期純利益}}{(\text{2022年12月期期末総資産} + \text{2023年12月期第3四半期末総資産}) \div 2} \times \frac{4}{3}$$

5. 2023年12月期 連結業績予想

2023年12月期 連結業績予想

- ✓ 第3四半期累計期間の好調な実績を踏まえつつ、為替レートを実勢に応じて見直した結果、売上高および各段階利益はいずれも過去最高となる見込み。
- ✓ カテゴリーではSPS及びOTが、地域別では日本、欧州及び中華圏が順調に推移する見通し。
- ✓ 剰余金の配当は、当期の業績やキャッシュ・フローの状況を総合的に勘案した結果、過去最高となる年間60円を見込む。

(単位：億円)	FY23 前回予想	FY23 今回予想	増減率	(ご参考) 為替影響除く増減率	FY22 実績	増減率	(ご参考) 為替影響除く前期比
売上高	5,500	5,700	+3.6%	+2.1%	4,846	+17.6%	+12.7%
営業利益	460	520	+13.0%	+12.5%	340	+52.9%	+49.1%
営業利益率	8.4%	9.1%	+0.7ppt	-	7.0%	+2.1ppt	-
経常利益	420	500	+19.0%	-	309	+61.8%	-
親会社株主に帰属する 当期純利益	250	275	+10.0%	-	198	+38.9%	-

配当金	中間	期末	通期
期初予想	22.0円	22.0円	44.0円
前回予想	25.0円	30.0円	55.0円
今回予想	25.0円	35.0円	60.0円

為替レート	USD	EUR	RMB
期初予想	125.00円	132.00円	19.00円
前回予想	135.00円	145.00円	19.50円
今回予想	140.00円	150.00円	19.50円

6.その他

- ✓ インバウンド
- ✓ サステナビリティにおける取組み
- ✓ 人的資本強化に向けた取組み
- ✓ 知財戦略の取組み
- ✓ IRカレンダー
- ✓ カテゴリー別地域別売上高構成
- ✓ 主要地域別カテゴリー別売上高構成
- ✓ 地域別実績（累計・3ヶ月）
- ✓ 連結業績予想：カテゴリー別・地域別
- ✓ 株価及び指標の推移

インバウンド

- ✓ インバウンド売上高は第3四半期累計期間でFY19を超過.
- ✓ また、10月単月は10億円を超過し、過去最高を記録. コロナ禍前の2019年10月比で+68%と大きく伸長.

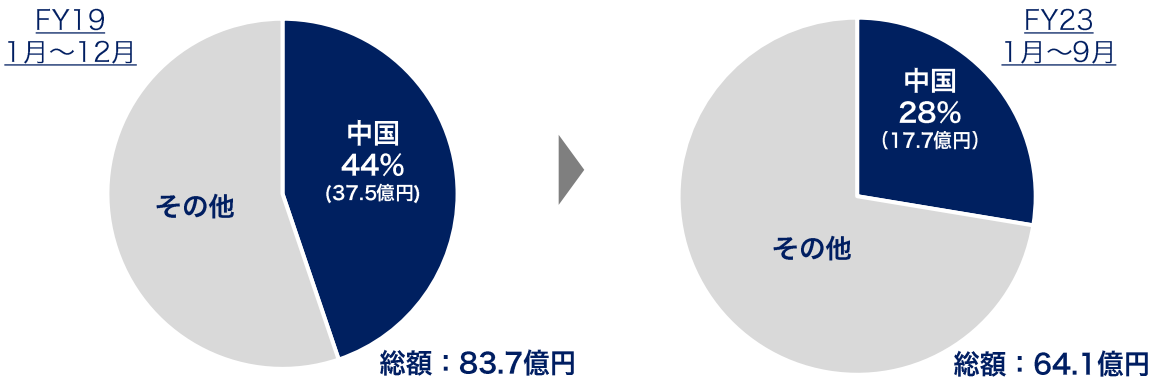
■1月～9月におけるインバウンド売上高

(単位：億円)	FY19	FY22	FY23
インバウンド 売上高	61.1	2.2	64.1
内、OT売上高	43.3	1.7	47.7

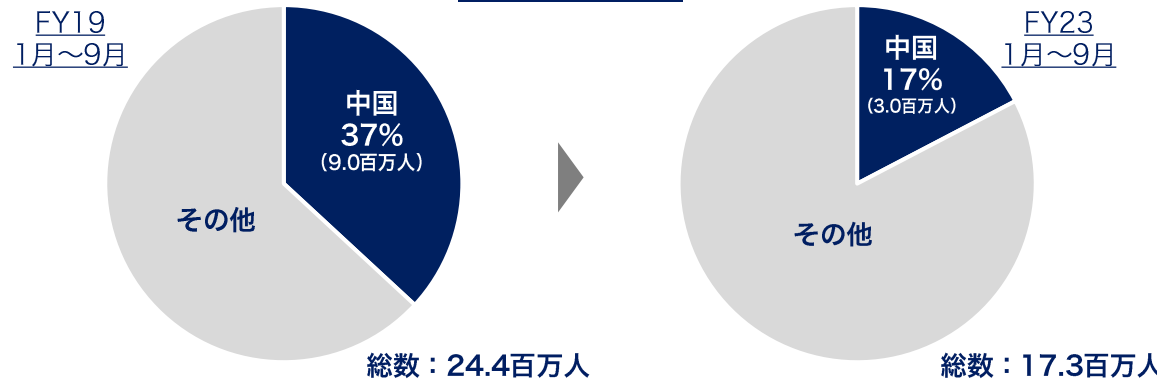
■10月単月におけるインバウンド売上高

(単位：億円)	FY19	FY22	FY23
インバウンド 売上高	7.5	1.9	12.6
内、OT売上高	5.3	1.4	9.8

■国別インバウンド売上高



■訪日外客数



出所：日本政府観光局（JNTO）



サステナビリティにおける取り組み

世界の人々の心身の健康とスポーツができる環境を守ることに貢献する。

＜基本方針＞

①サプライチェーン上の人権を尊重する

②2030年CO₂削減目標
(事業所およびサプライチェーン)



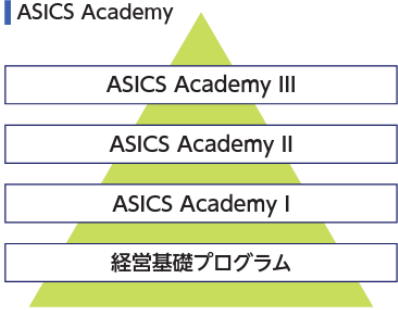

BUSINESS AMBITION FOR 1.5°C   **OUR ONLY FUTURE**
63%削減 (2015年比)

People (人と社会への貢献)	Planet (環境への配慮)	開示・外部評価など
<ul style="list-style-type: none"> ✓ パリ2024パラリンピック競技大会のオフィシャルサプライヤーに決定 ✓ 運動におけるジェンダー格差を解消するためのグローバル研究調査「Move Every Mind」プロジェクトを開始. 女性の運動実施率向上を目指す 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 温室効果ガス排出量が1.95kgと市販スニーカーで世界最少※の「GEL-LYTE III CM 1.95」を発売 <p>※ 2023年9月現在、製品ライフサイクルにおける温室効果ガス排出量が開示されている市販シューズを対象としたデータに基づく</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「Sustainable Japan Award 2023」(主催：株式会社ジャパントイムズ、後援：経済産業省、環境省、金融庁)において、最優秀賞を9月に受賞 ✓ 社会的・環境的な方針と実践・影響についての開示状況についてランク付けした「Fashion Transparency Index」(主催：ファッション産業の透明性を高める活動を行うFASHION REVOLUTION)にて平均スコア26%に対し、45%のスコアを7月に獲得 

人的資本強化に向けた取組み

個人の多様性 × インクルーシブな組織 = イノベーションの創出

■主な取組み

従業員によるSound Mind, Sound Bodyの実現	グローバルでビジネスをリードする人財育成	D&I (Diversity & Inclusion) の推進
<ul style="list-style-type: none"> ✓ ASICS Well-being Report 2023を9月に公開 asics-well-being-2023-0828_5P ✓ 従業員のヘルスリテラシーの向上と定着を目指し、5つの重点項目に沿ったさまざまな施策を実行 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ グローバル経営幹部候補のサクセッションプラン、個別の育成計画を実施 ✓ 2023（第8期）ASICS Academyをスタート 次世代経営幹部の後継者の強化を目指す 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ アシックスでは、9月をCultural Diversity Month（文化多様性月間）として、グローバルD&I推進委員から従業員にグループの文化的多様性の重要性を説明
 		

<アシックスグループ（連結）>

エンゲージメントスコア※
 回答率79%
 スコア66
 (2022年10月)

女性管理職比率※
 回答率84%
 スコア68
 (2023年4月)

目標
 35%
 (2023年度)

実績
 38%
 (2023年6月)

<株式会社アシックス（単体）>

新卒女性採用率
 53%
 (2023年4月入社)

育児休業取得率※
 60%
 (男性)

障がい者雇用率※
 100%
 (女性)

本社勤務従業員出身国※
 2.36%
 18カ国

※ : 第4四半期に更新予定

知財戦略の取組み

ブランドの保護、ブランド価値の向上に貢献する「知財経営」の実践

VISION 2030に沿った知財活動

デジタル

- ✓ ランニングなどの運動を分析・支援する技術を中心とした特許出願
- ✓ ランニングエコシステムに関連するIPL実施 ※

パーソナル

- ✓ ユーザの足の計測技術、使用環境を想定したパーソナライズシューズの製造技術、3Dプリントを活用したシューズなどの技術を中心とした特許出願
- ✓ パーソナルシューズ製造技術のIPL実施

サステナブル

- ✓ リサイクル性を考慮したシューズ、環境負荷を指標とした製造技術を中心とした特許出願
- ✓ リサイクル技術に関するIPL実施中

※ IPL : Intellectual Property Landscape
自社や他社の知的財産および市場を総合的に分析し、得られた情報を経営戦略に活かす手法

特許・商標事例

METASPEED LD 0 : 欧州特許登録

前足部で露出したソールプレートが、後足部でミッドソール内に収容される構造



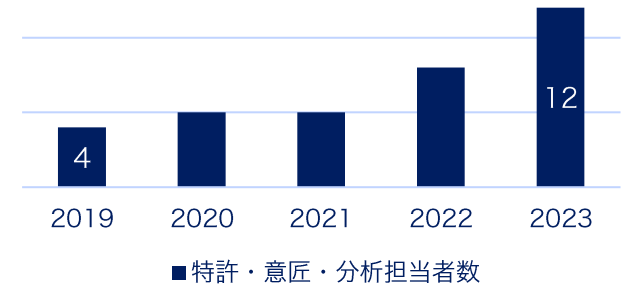
- ✓ METASPEEDシリーズとして初の特許登録

Onitsuka Tiger : 立体商標登録



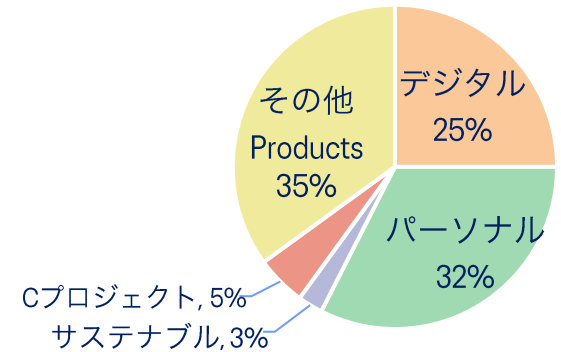
- ✓ ASICSとして初の立体商標登録（日本）

特許・意匠・分析担当者数の推移及び特許出願分野



- ✓ 2019年比で特許・意匠・分析担当者を3倍に増員

2023年特許出願における技術分野



- ✓ VISION 2030関連とCプロジェクト(注)関連で60%以上の特許出願

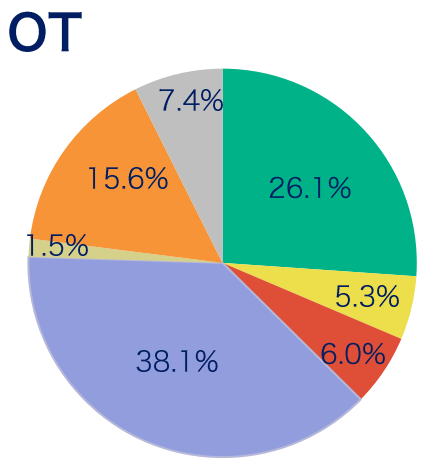
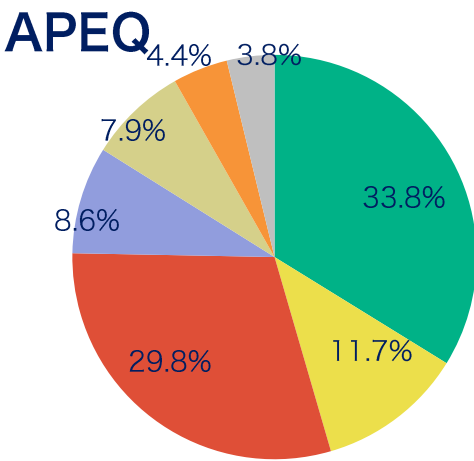
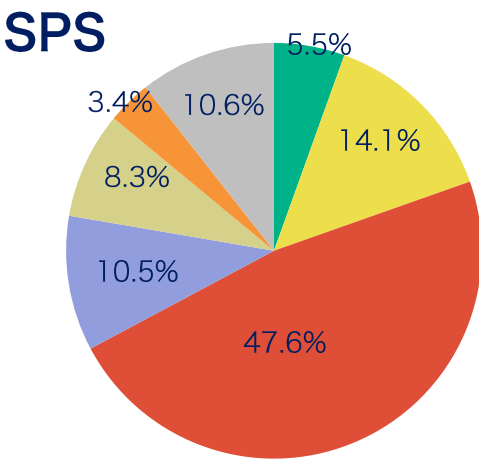
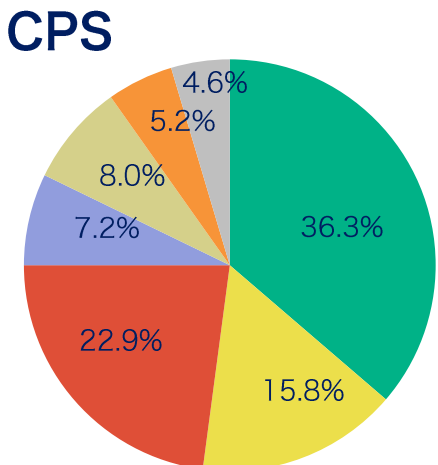
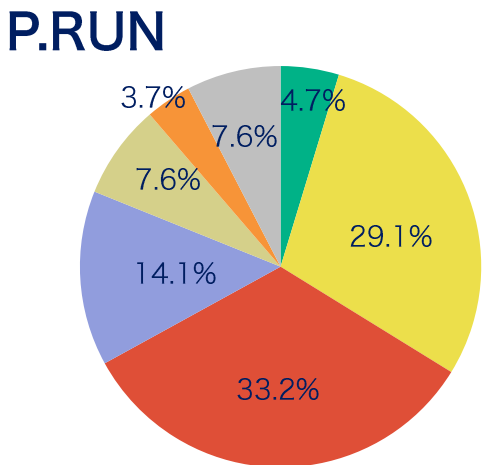
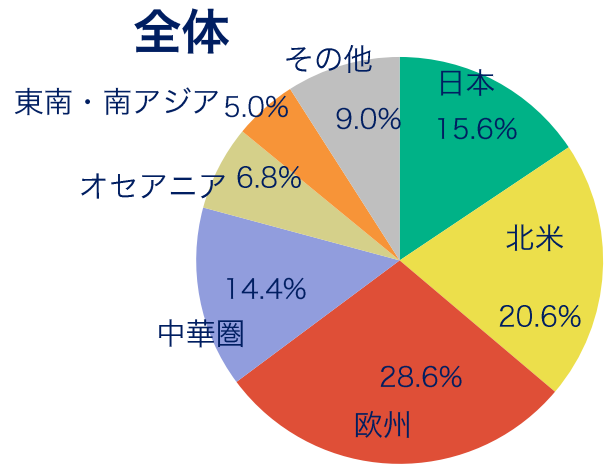
(注) トップアスリート領域でトップシェアを取り戻す「頂上(Chojo)奪還プロジェクト」で社長直轄の組織

主な予定

2023年12月期 第3四半期決算	11月10日	15:00 15:30	決算発表 ライブ配信 機関投資家、アナリスト、報道機関向け
インベストメントデイ	11月28日	15:30	「中期経営計画2026」公表
2023年12月期決算	2024年2月9日 2024年2月13日	15:00 15:30 未定	決算発表 決算説明会 報道機関向け 決算説明会 機関投資家、アナリスト、報道機関向け

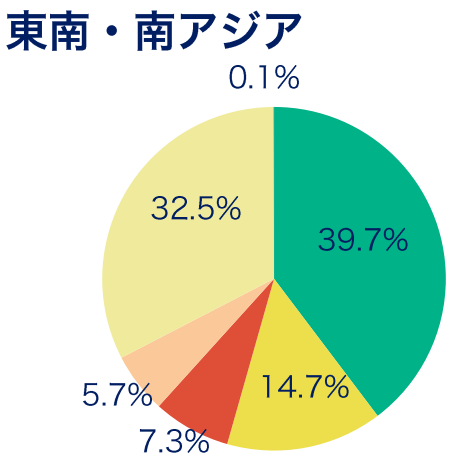
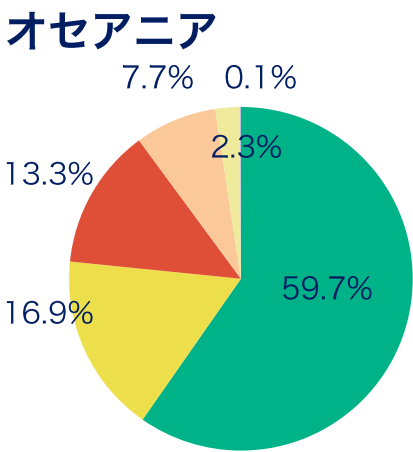
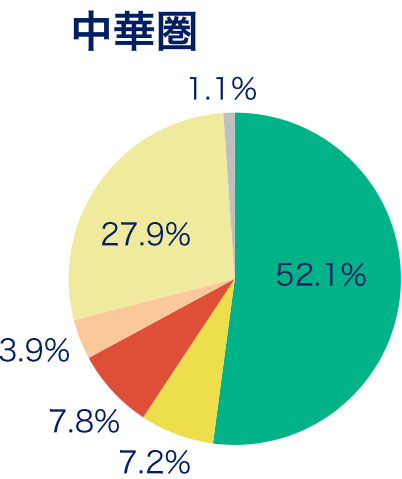
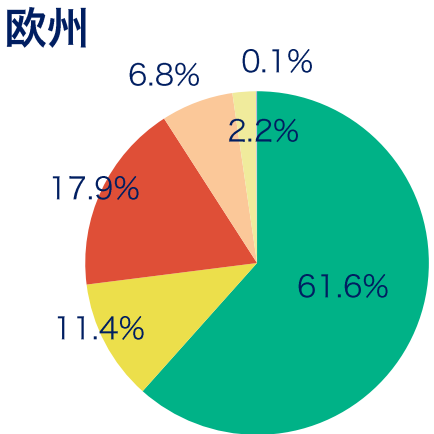
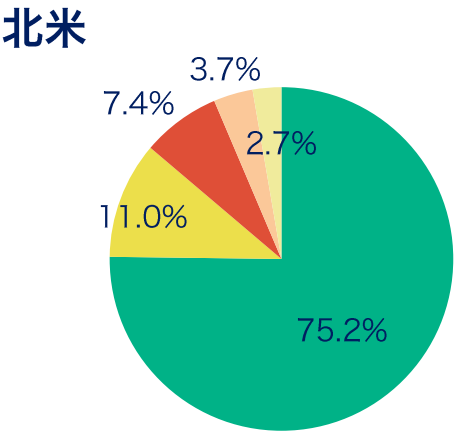
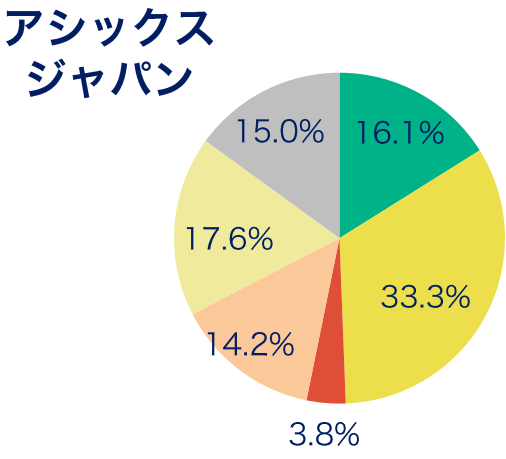
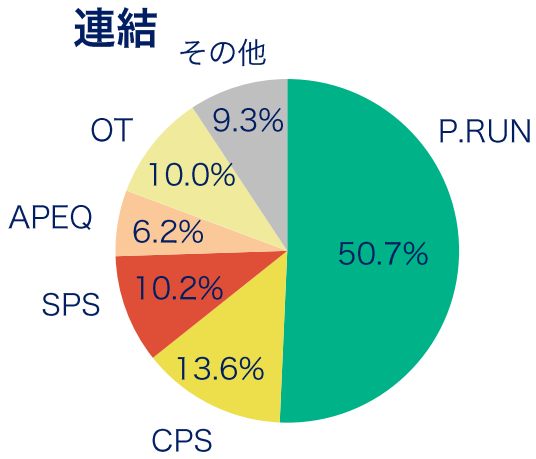
カテゴリー別地域別売上高構成

■ 日本
 ■ 北米
 ■ 欧州
 ■ 中華圏
 ■ オセアニア
 ■ 東南・南アジア
 ■ その他



主要地域別カテゴリー別売上高構成

■ P.RUN ■ CPS ■ SPS ■ APEQ ■ OT ■ その他



2023年12月期 第3四半期地域別実績

(単位：億円)

日本	FY22 (1-9月)	FY23 (1-9月)	前年同期比	
			増減額	増減率
売上高	891	1,019	+128	+14.3%
為替影響除く増減		1,019	+128	+14.3%
営業利益	43	112	+69	+160.1%
営業利益率	4.8%	11.0%	-	+6.2ppt

アシックスジャパン (日本地域の内数)	FY22 (1-9月)	FY23 (1-9月)	前年同期比	
			増減額	増減率
売上高	491	666	+175	+35.6%
為替影響除く増減		666	+175	+35.6%
営業利益	12	78	+66	+519.6%
営業利益率	2.6%	11.7%	-	+9.1ppt

北米	FY22 (1-9月)	FY23 (1-9月)	前年同期比	
			増減額	増減率
売上高	756	877	+121	+16.1%
為替影響除く増減		808	+52	+6.9%
営業利益	14	19	+5	+33.0%
営業利益率	1.9%	2.2%	-	+0.3ppt

欧州	FY22 (1-9月)	FY23 (1-9月)	前年同期比	
			増減額	増減率
売上高	1,024	1,222	+198	+19.3%
為替影響除く増減		1,105	+81	+7.9%
営業利益	125	152	+27	+21.6%
営業利益率	12.3%	12.5%	-	+0.2ppt

中華圏	FY22 (1-9月)	FY23 (1-9月)	前年同期比	
			増減額	増減率
売上高	476	613	+137	+28.8%
為替影響除く増減		597	+121	+25.6%
営業利益	106	130	+24	+22.0%
営業利益率	22.4%	21.2%	-	△1.2ppt

オセアニア	FY22 (1-9月)	FY23 (1-9月)	前年同期比	
			増減額	増減率
売上高	248	288	+40	+16.0%
為替影響除く増減		279	+31	+12.8%
営業利益	41	49	+8	+18.0%
営業利益率	16.9%	17.2%	-	+0.3ppt

東南・南アジア	FY22 (1-9月)	FY23 (1-9月)	前年同期比	
			増減額	増減率
売上高	138	214	+76	+54.3%
為替影響除く増減		200	+62	+45.0%
営業利益	27	48	+21	+76.9%
営業利益率	19.6%	22.5%	-	+2.9ppt

その他地域	FY22 (1-9月)	FY23 (1-9月)	前年同期比	
			増減額	増減率
売上高	334	386	+52	+15.5%
為替影響除く増減		359	+25	+7.7%
営業利益	30	45	+15	+50.3%
営業利益率	9.0%	11.7%	-	+2.7ppt

2023年12月期 第3四半期地域別実績 (3ヶ月期間)

(単位：億円)

日本	FY22 (7-9月)	FY23 (7-9月)	前年同期比	
			増減額	増減率
売上高	326	328	+2	+0.6%
為替影響除く増減		328	+2	+0.6%
営業利益	13	32	+19	+161.6%
営業利益率	3.8%	9.8%	-	+6.0ppt

アシックスジャパン (日本地域の内数)	FY22 (7-9月)	FY23 (7-9月)	前年同期比	
			増減額	増減率
売上高	183	229	+46	+25.0%
為替影響除く増減		229	+46	+25.0%
営業利益	7	26	+19	+235.2%
営業利益率	4.1%	11.1%	-	+7.0ppt

北米	FY22 (7-9月)	FY23 (7-9月)	前年同期比	
			増減額	増減率
売上高	280	318	+38	+13.8%
為替影響除く増減		301	+21	+7.3%
営業利益	19	14	△5	△30.0%
営業利益率	7.1%	4.4%	-	△2.7ppt

欧州	FY22 (7-9月)	FY23 (7-9月)	前年同期比	
			増減額	増減率
売上高	394	439	+45	+11.1%
為替影響除く増減		388	△6	△1.5%
営業利益	54	73	+19	+35.1%
営業利益率	13.7%	16.7%	-	+3.0ppt

中華圏	FY22 (7-9月)	FY23 (7-9月)	前年同期比	
			増減額	増減率
売上高	187	209	+22	+12.2%
為替影響除く増減		207	+20	+10.9%
営業利益	47	46	△1	△3.8%
営業利益率	25.2%	21.6%	-	△3.6ppt

オセアニア	FY22 (7-9月)	FY23 (7-9月)	前年同期比	
			増減額	増減率
売上高	94	100	+6	+5.6%
為替影響除く増減		98	+4	+4.3%
営業利益	12	18	+6	+44.9%
営業利益率	13.3%	18.3%	-	+5.0ppt

東南・南アジア	FY22 (7-9月)	FY23 (7-9月)	前年同期比	
			増減額	増減率
売上高	58	80	+22	+37.1%
為替影響除く増減		75	+17	+30.0%
営業利益	13	19	+6	+42.9%
営業利益率	22.1%	23.1%	-	+1.0ppt

その他地域	FY22 (7-9月)	FY23 (7-9月)	前年同期比	
			増減額	増減率
売上高	132	144	+12	+9.6%
為替影響除く増減		133	+1	+1.1%
営業利益	16	19	+3	+18.7%
営業利益率	11.9%	12.9%	-	+1.0ppt

2023年12月期 連結業績予想：カテゴリー別

(単位：億円)		FY23 前回予想	FY23 今回予想	増減率	為替影響を除く 増減率	FY22 実績	前期比	為替影響を除く 増減率
P.RUN	売上高	2,870	2,870	-	△2%	2,582	+11%	+5%
	カテゴリー利益	530	505	△5%	△6%	491	+3%	△1%
CPS	売上高	680	700	+3%	+2%	541	+29%	+25%
	カテゴリー利益	120	125	+4%	+3%	94	+32%	+28%
SPS	売上高	540	600	+11%	+9%	434	+38%	+31%
	カテゴリー利益	100	115	+15%	+13%	64	+79%	+71%
APEQ	売上高	350	350	-	△1%	352	△1%	△4%
	カテゴリー利益	10	10	-	+1%	△16	-	-
OT	売上高	550	600	+9%	+9%	430	+39%	+37%
	カテゴリー利益	120	155	+29%	+29%	73	+109%	+108%

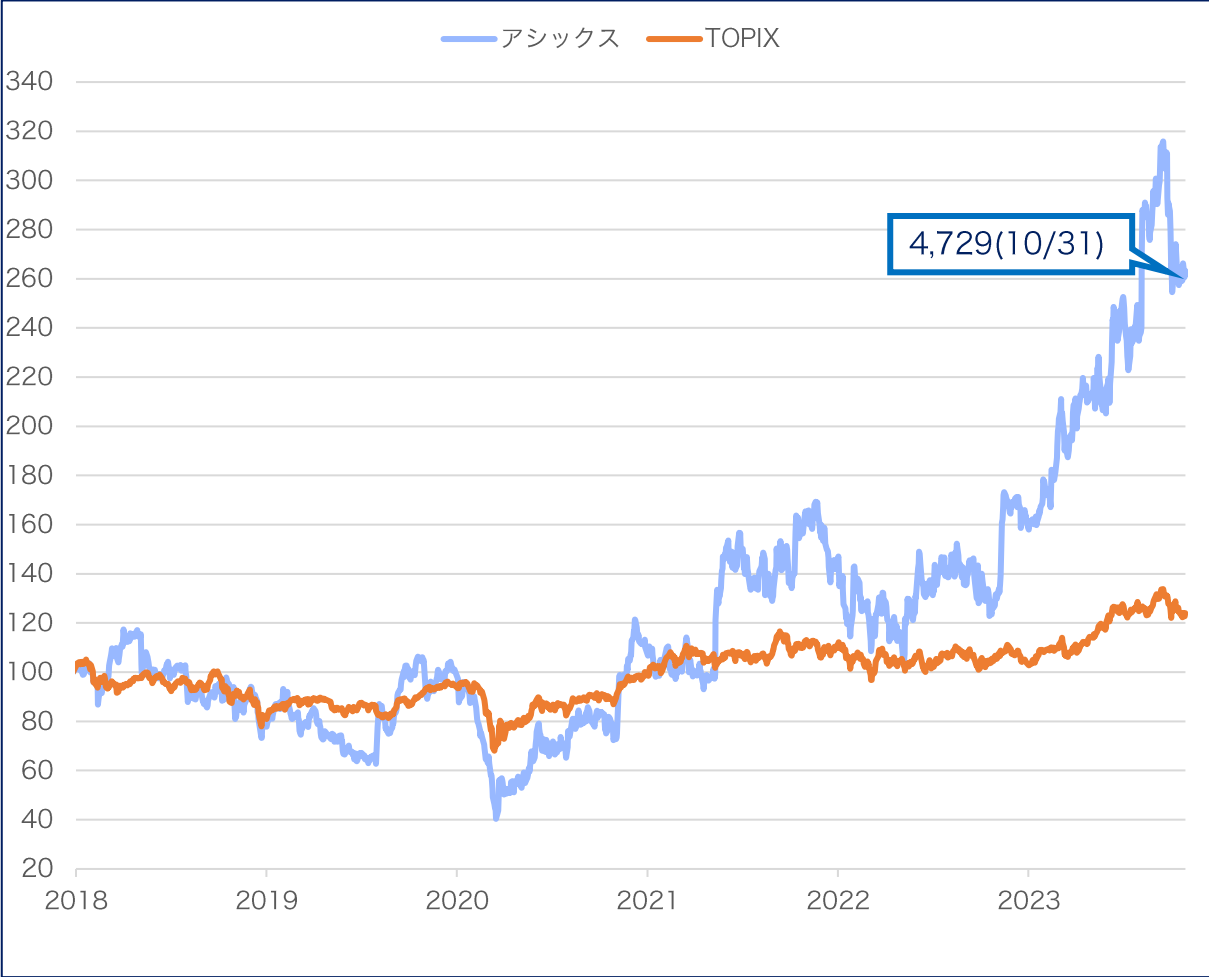
2023年12月期 連結業績予想：地域別

(単位：億円)		FY23 前回予想	FY23 今回予想	増減率	為替影響を除く 増減率	FY22 実績	前期比	為替影響を除く 増減率
日本 地域 ※	売上高	1,250	1,300	+4%	-	1,234	+5%	-
	営業利益	100	115	+15%	-	60	+90%	-
うち、 アシックスジャパン	売上高	800	830	+4%	-	672	+23%	-
	営業利益	60	70	+17%	-	14	+381%	-
北米 地域	売上高	1,150	1,150	-	△3%	1,053	+9%	+2%
	営業利益	10	10	-	+8%	0	-	-
欧州 地域	売上高	1,410	1,460	+4%	-	1,300	+12%	+3%
	営業利益	125	140	+12%	+9%	112	+24%	+15%
中華圏 地域	売上高	770	790	+3%	+3%	624	+27%	+25%
	営業利益	140	145	+4%	+4%	100	+44%	+43%
オセアニア 地域	売上高	365	370	+1%	+1%	332	+11%	+12%
	営業利益	60	60	-	-	52	+15%	+16%
東南・南アジア 地域	売上高	270	270	-	-	184	+46%	+41%
	営業利益	50	50	-	-	29	+68%	+63%

※ 日本地域には、他の地域にはない主要5カテゴリー以外を販売する会社も含まれております。他の地域との比較可能性を考え、アシックスジャパンを日本地域の内訳として記載しております。
 なお、日本地域には、アシックスジャパン、アシックス商事、ニシスポーツなどの会社を含みます。

株価及び指標の推移

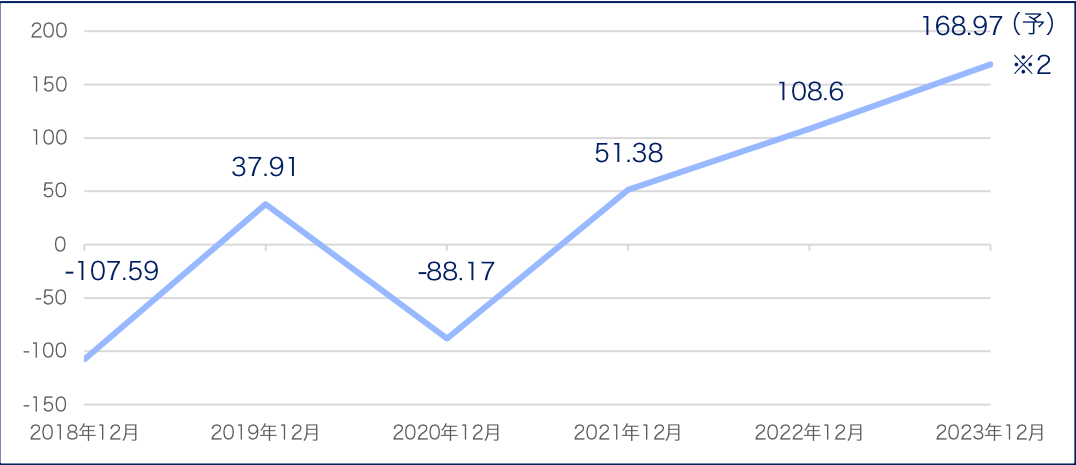
■株価推移 2017年末 - 2023年10月31日 ※1



※1 2017年12月29日を100として指数化
 ※2 コンセンサス予想数値を使用
 ※3 PBR算出方法：株価純資産倍率＝株価／1株当り純資産額
 ※4 2023年10月31日時点

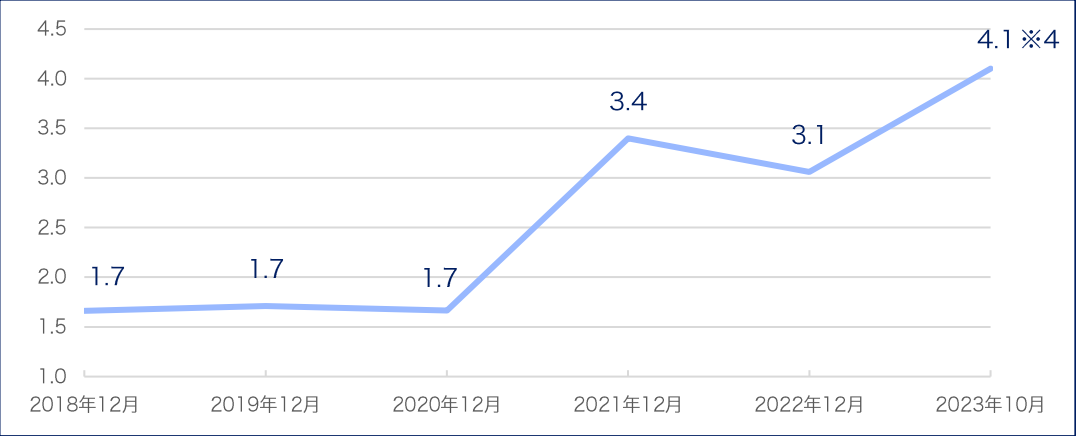
出所：ブルームバーグ

■ EPS推移



出所：ブルームバーグ

■ PBR推移 ※3



出所：ブルームバーグ

